

3) 東北地方における海ワシ類の分布および生息状況

資料調査によって収集した海ワシ類の出現記録（1935年～2014年）を整理した。集計・解析にあたっては、量的な把握を情報の件数と出現地点数に基づいて行った。個体数の記載は情報の種類や内容によってばらつきが大きく、未記載の件数も多かったためである。なお、本調査によって出現記録の得られなかった地域が、過去に海ワシ類の生息がなかったことを示すものではないことに留意が必要である。

(1) 収集した情報の種類と傾向

資料調査によって収集した海ワシ類の情報は、オジロワシ 2,023 件、オオワシ 1,096 件、合計 3,119 件であった。情報の種類と内容を以下に示す（図 2-3-1-1）。

- ・オジロワシ、オオワシとも情報の約 85% に、出現した位置と年が記録されていた。一方、位置情報がない（特定できない）ものは 3～4%、年情報が未記載のものは 9～10% 含まれていた。全体に必要事項が示された有効な情報であった。
- ・海ワシ類の全情報 3,119 件中、1 件の情報に記録されている個体数は、1 羽 1,830 件、2 羽 482 件、3 羽 101 件、4 羽 4 件、5 羽以上 66 件、個体数未記載 594 件（約 20%）であった。
- ・出現記録は 1935 年から見られたが、情報件数が多くなったのは、東北地方でオオワシ・オジロワシ一斉調査³²が開始された 1985 年以降である（図 2-3-1-2）。ただし、それ以前の海ワシ類の飛来数が少なかったことを意味するものではない。
- ・収集された情報の多くは、各地の野鳥の会会報などの文献資料から得られた。都道府県別に見ると、岩手、宮城は情報量が多く、山形、福島は情報量が少なかった（図 2-3-1-3）。
- ・また、地元有識者から直接過去の観察記録を入手できた青森と山形は、未発表資料からの情報数が多かった。

³² オオワシ・オジロワシ一斉調査およびオジロワシ・オオワシ合同調査グループについては p. 171 を参照。

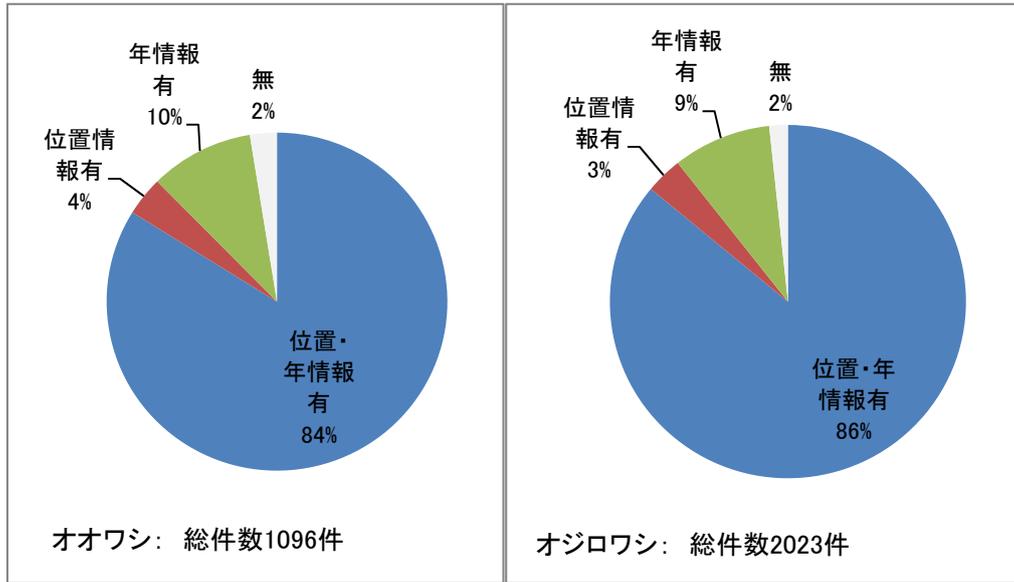
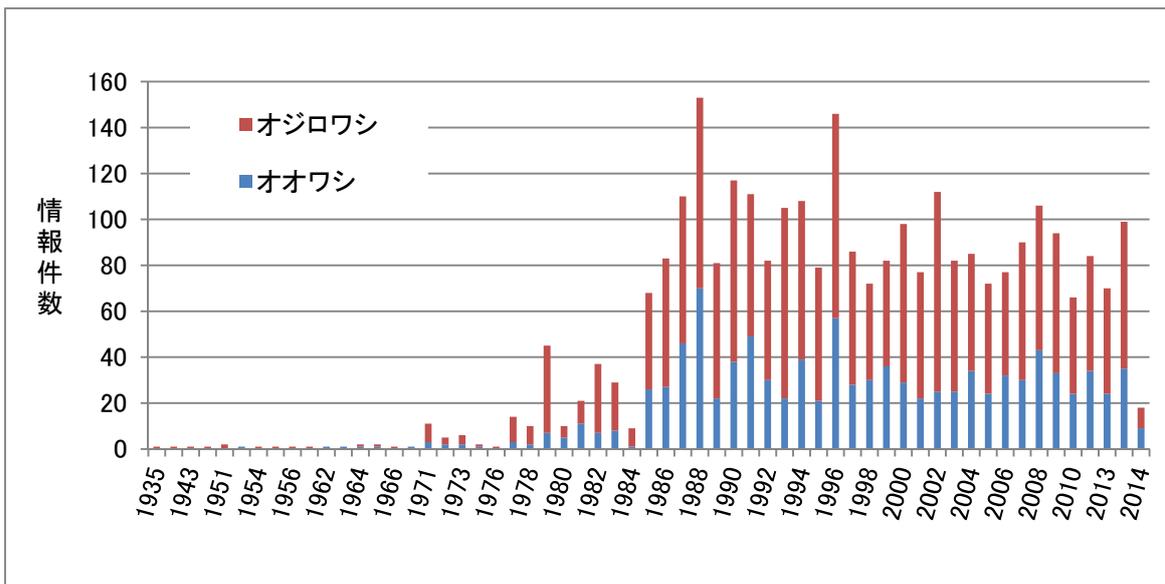


図 2-3-1-1 オジロワシ・オオワシの情報内容(位置と年)の割合(資料調査)



(注)1985年に東北地方のオオワシ・オジロワシ一斉調査開始

図 2-3-1-2 オジロワシ・オオワシの年別の情報件数(資料調査)

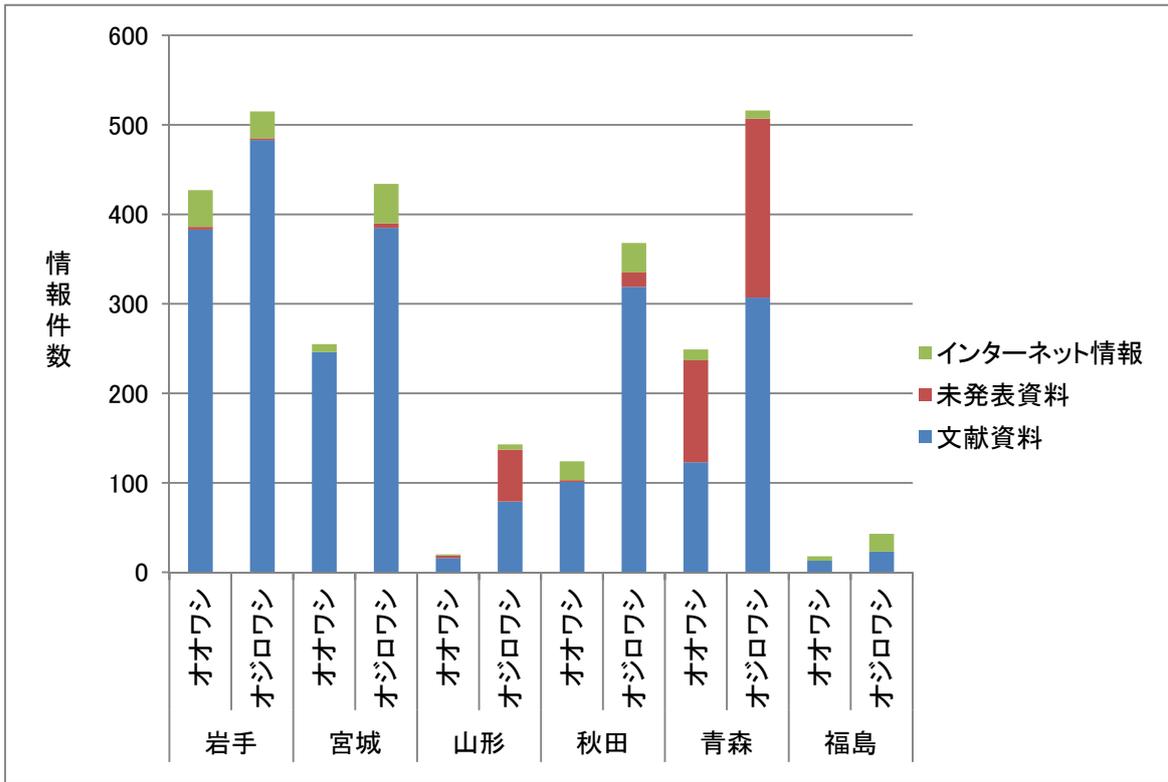


図 2-3-1-3 オジロワシ・オオワシの県別情報件数(資料調査)

(2) 総出現記録に占める一斉調査の割合

収集した資料（1935年～2014年）には、1985年以降毎年、東北地方で実施されているオオワシ・オジロワシ一斉調査の結果が含まれている（表 2-3-2-1）。本調査で集計した海ワシ類の出現記録に一斉調査の結果（件数）が占める割合を以下に示す。

- ・総出現事例数で見ると、オジロワシは14%（2023件中289件）、オオワシは23%（1,096件中248件）が、一斉調査により記録されたものであった（図 2-3-2-1）。
- ・一斉調査による記録は毎年8%～33%を占める（図 2-3-2-2）。
- ・東北地方で一斉調査が開始された1985年以降、オオワシ、オジロワシの記録数は、単に一斉調査の記録が加算された以上に増加している（図 2-3-2-3）。この年には一斉調査が日露共同オオワシ調査の一環として日本野鳥の会と共同で行われたこともあり、これが契機となって海ワシ類の観察数、報告数が増えた可能性もある（p. 171を参照）。
- ・県別に見ると、岩手の海ワシ類出現事例の49%は一斉調査によるものであった。以下、宮城は8%、秋田2%、青森1%、山形と福島は0%であった（図 2-3-2-4）。
- ・月別に見ると、2月の海ワシ出現事例の42%が一斉調査によるもので、1月は2%、3月が3%となった。一方、4月～12月の海ワシ類出現事例は、すべて一斉調査以外で記録されたものであった（図 2-3-2-5）。
- ・すなわち、1985年以降の岩手における2月の記録は、一斉調査の結果が約40%を占める。一方、それ以外の県や月については、一斉調査の結果が占める割合は10%未満であった。
- ・出現地点数で見ると、オジロワシは全519地点中53地点（約10%）、オオワシは全232地点中44地点（約19%）が、一斉調査のみで記録された（図 2-3-2-6）。

表 2-3-2-1 オオワシ・オジロワシ一斉調査の記録が記載された資料

資料名	発行年	著者
オオワシ・オジロワシ一斉調査報告書 1985～2004 岩手県	2005年	日本野鳥の会・岩手県 連絡協議会
ミサゴの海 No.179、No.184、No.191、No.196、 No.203、No.209、No.214、No.221、No.227	各2005年、2006年、2007年、 2008年、2009年、2010年、 2011年、2012年、2013年	日本野鳥の会宮古支部
オオワシ・オジロワシ一斉調査 調査区別集計 表(2005年、2006年、2007年、2008年)	—	オジロワシ・オオワシ 合同調査グループ
オオワシ・オジロワシ一斉調査結果について (2009年、2010年、2011年、2012年、2013年)	各2009年、2011年、2011年、 2012年、2013年	オジロワシ・オオワシ 合同調査グループ

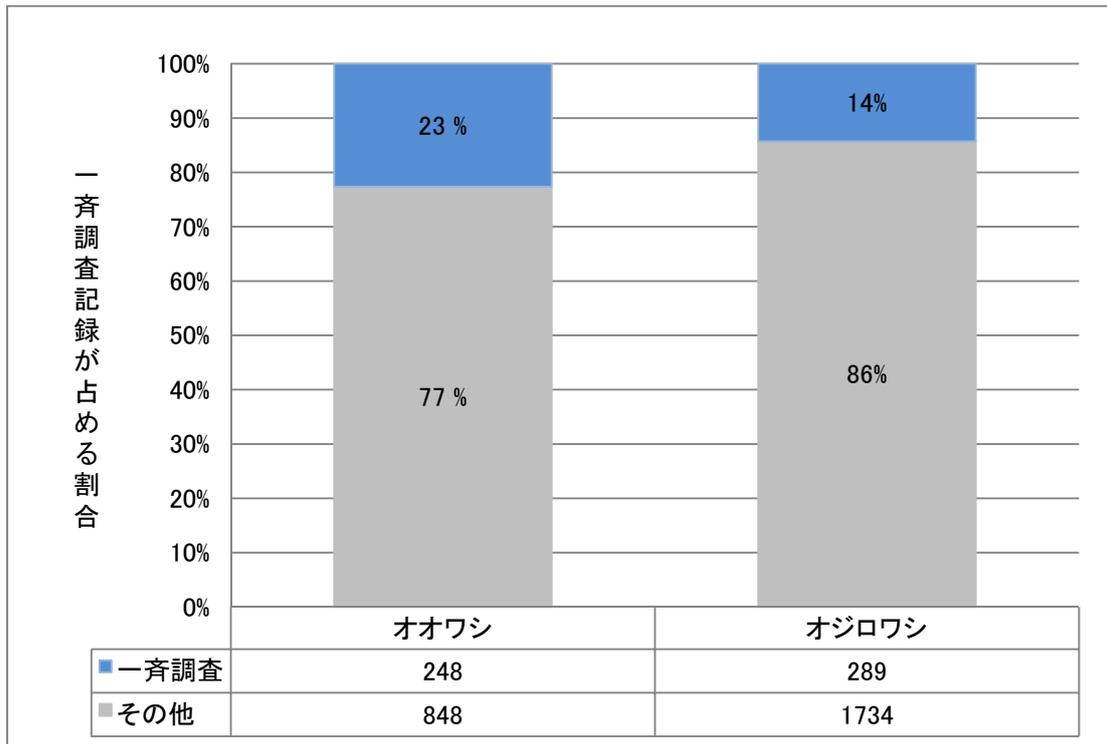


図 2-3-2-1 オオワシ・オジロワシの総出現記録に占める一斉調査記録の割合

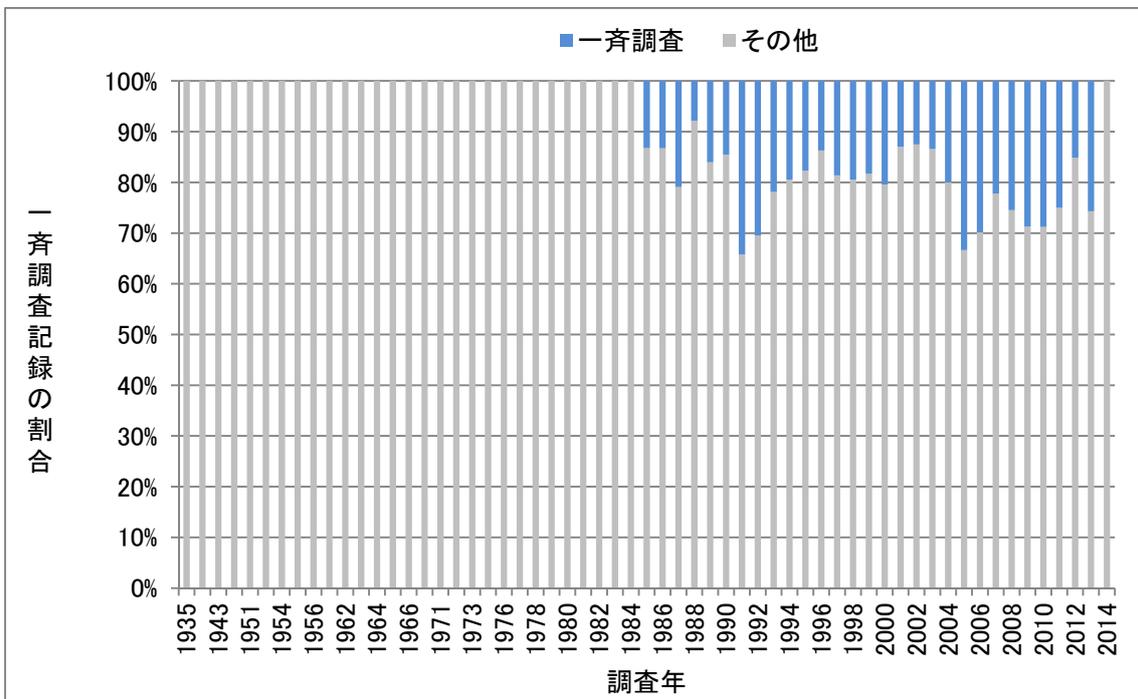


図 2-3-2-2 年別の海ワシ類総出現記録に占める一斉調査記録の割合

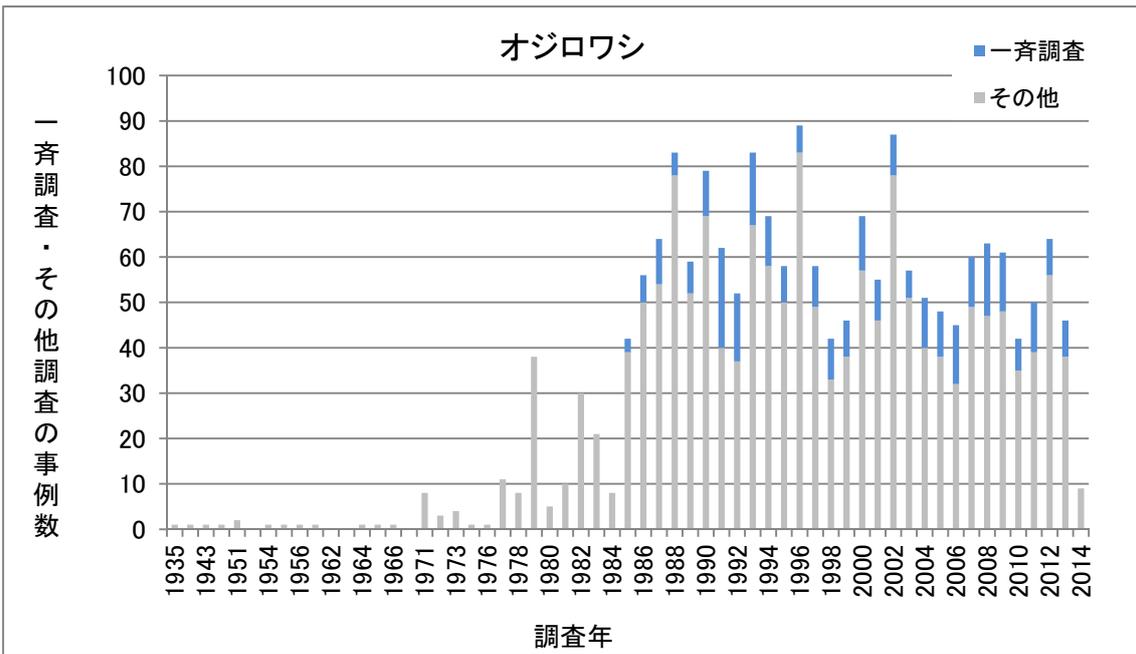
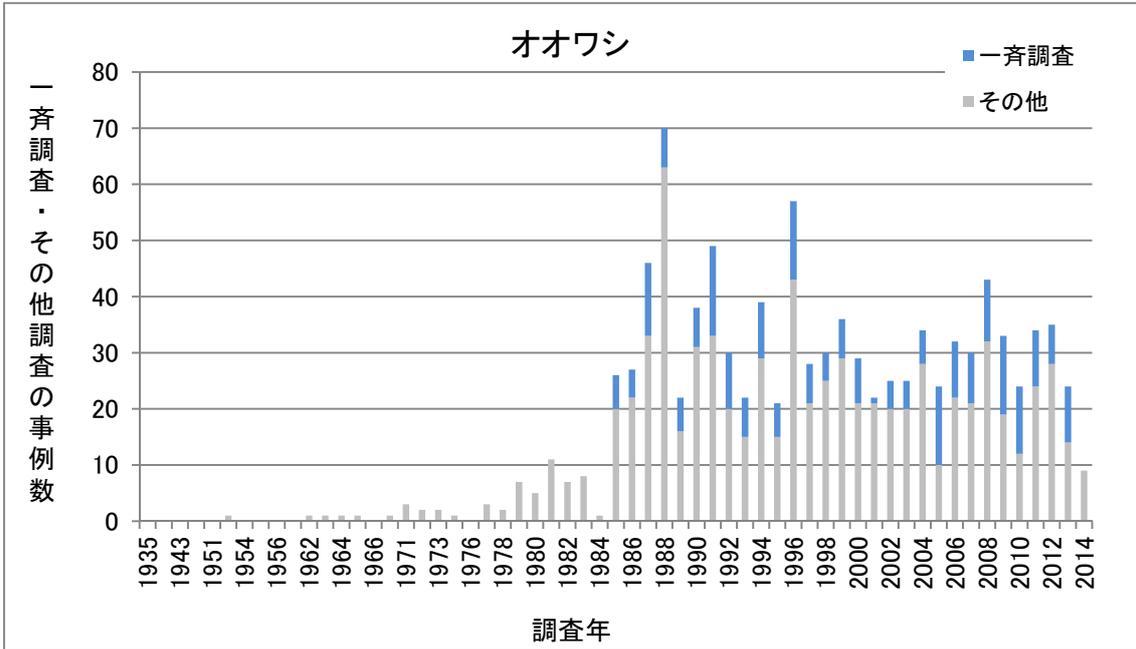


図 2-3-2-3 オオワシ・オジロワシの一斉調査およびその他調査の年別記録件数

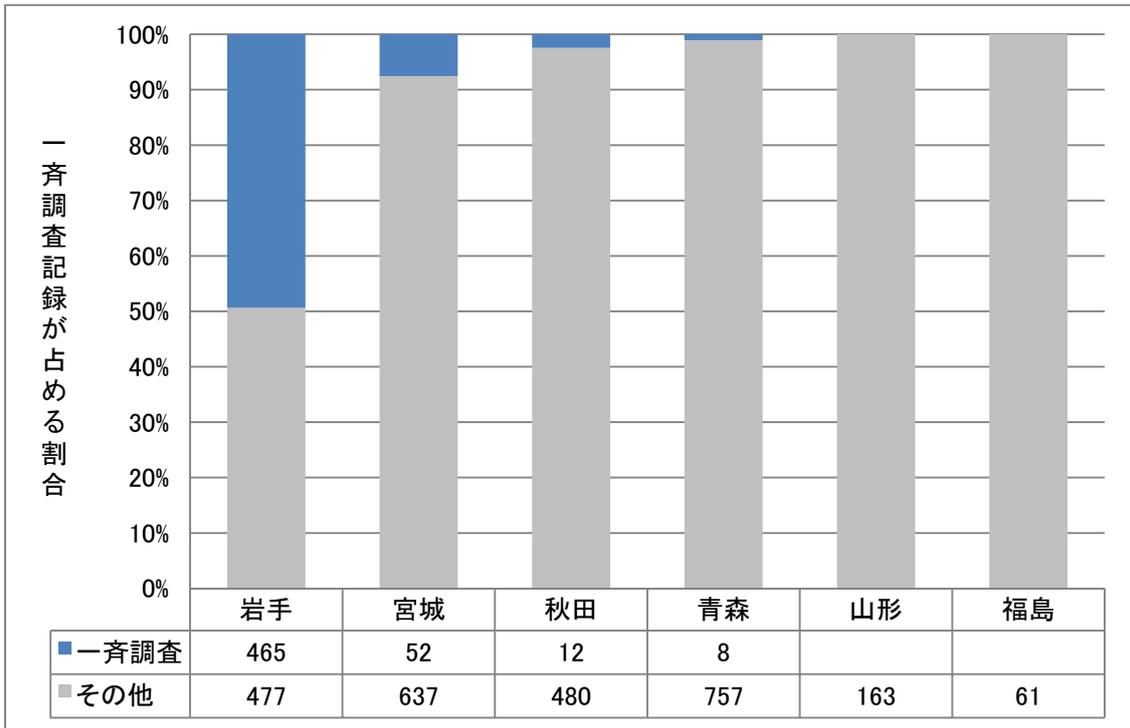


図 2-3-2-4 県別の海ワシ類総出現記録に占める一斉調査記録の割合

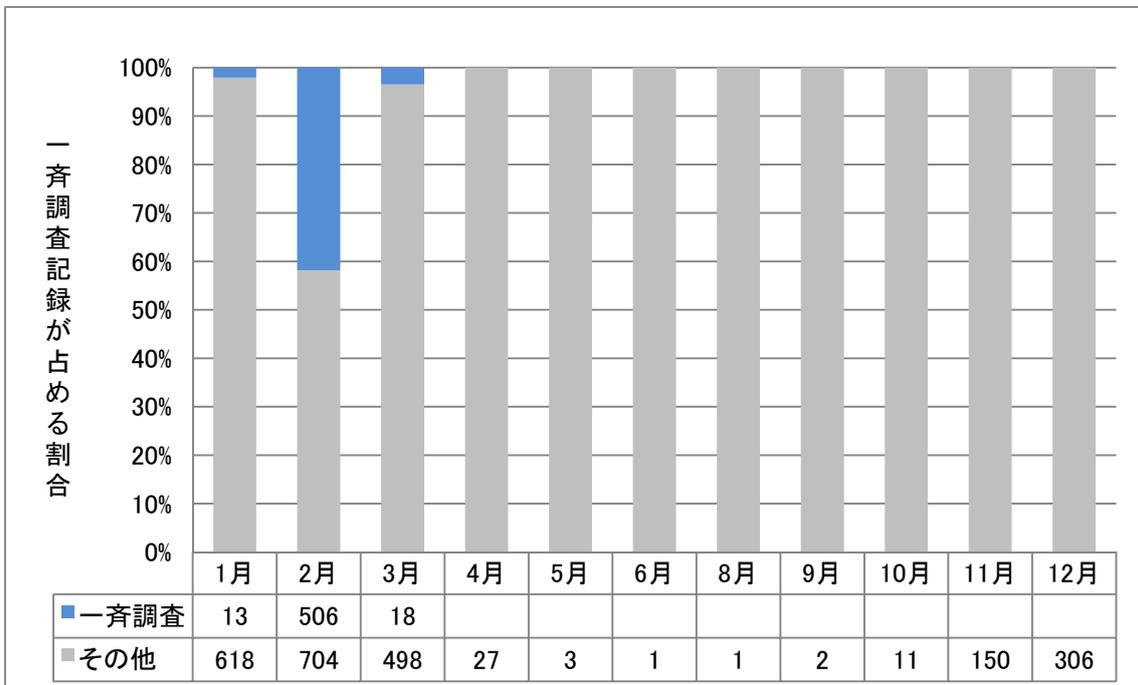


図 2-3-2-5 月別の海ワシ類総出現記録に占める一斉調査記録の割合

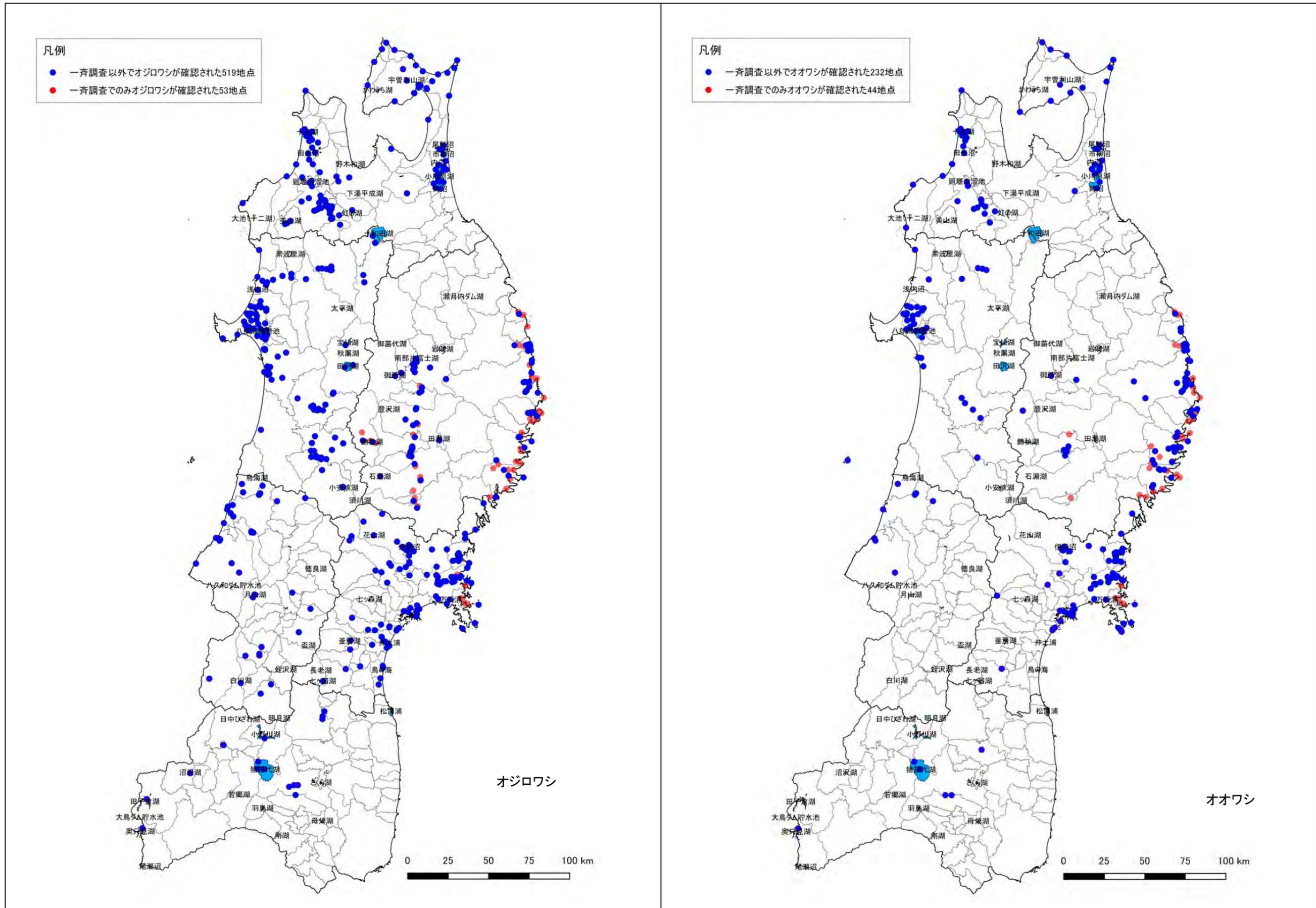


図 2-3-2-6 海ワシ類の出現地点：資料調査結果(1935年～2014年)

(注)オオワシ・オジロワシ一斉調査の記録を参考にして作成。
出現地点を示す○はおよその範囲を表すもので、一部推定も含まれる。

(3) 分布状況の年代別推移

資料調査によって収集した海ワシ類の情報の中で、位置および年情報が記録されていたオジロワシ 920 件、オオワシ 1,739 件については、GIS を用いてその事例数を集計した。集計にあたっては、東北地方全体の傾向を見る上で適当と考えられる 2 次メッシュを使用し、長期的な変化をみるために年代別（10 年単位）³³に示した。なお、1935 年～1969 年については情報量が極端に少なく、年代別の傾向も捉えにくいため、一括して扱った。

その結果、オジロワシ、オオワシの年代別分布状況の推移は以下の通りである（図 2-3-3-1～図 2-3-3-7）。

① オジロワシ

- ・1969 年以前： 出現記録は 1935 年から 1969 年までのものに該当するが、出現地点は青森、岩手、宮城の 1～2 箇所と非常に少ない。古くには両種が一般的な出現記録の対象でなかったことを示唆する結果と考えられる。
- ・1970 年代： 主に宮城に出現事例が多く、なかでも三陸沿岸や内陸の伊豆沼周辺に集中して見られた。
- ・1980 年代： 宮城は 70 年代と同様であるが、特に三陸沿岸の志津川湾（50 件）や女川湾（23 件）に多く見られた（1980 年代後半から志津川湾で銀サケ養殖が盛んになる³⁴）。また、青森の津軽平野の廻堰ため池（12 件）、下北半島の尻屋崎付近（12 件）でも、出現事例が多くなった。岩手の三陸沿岸の複数地点でも、出現が記録されるようになった（1985 年以降、一斉調査結果が加わる）。
- ・1990 年代： 宮城での出現件数は減少し、岩手の三陸沿岸（最大 24 件）、青森の十三湖（23 件）、小川原湖（13 件）や廻堰ため池（35 件）、秋田の八郎潟（13 件）などで増加した。また内陸部では岩手の北上川流域（最大 19 件）、秋田の雄物川流域（最大 32 件）で出現記録が増加した。
- ・2000 年代： 大きな傾向は 1990 年代と同様であるが、秋田の雄物川、岩手の北上川流域など内陸部での出現範囲が広がった。また、岩手の五葉山周辺で記録されるようになった。これは五葉山周辺でシカの有害鳥獣駆除対策が始まった時期に符号し、シカの死体を餌対象にした結果と推察される。
- ・2010 年代： 累積年数が 5 年間であり、記録数は他の年代に比べて少ない。

³³ 年代：1970 年代の場合は 1970 年～1979 年の 10 年間を指す。

³⁴ 1976 年に志津川湾で始まった銀サケの養殖事業は、宮城・岩手県の三陸沿岸で広まり、1987 年には 23,000 トンの生産量をあげるようになった。しかし、1990 年代に入り南米チリ産の養殖サケが低価格で輸入されるようになると事業の撤退・縮小が進み、生産量も 9,000 トンまで落ち込んだ。現在も宮城県が全国生産量の 90% を占める。<http://www.maruha-nichiro.co.jp/salmon/fishery/08.html>

② オオワシ

- 1969 年以前： 宮城と秋田に出現記録が得られたのみである。
- 1970 年代： 主に青森の尻屋崎、小川原湖、岩手の宮古湾、宮城の三陸沿岸から牡鹿半島で記録されている。
- 1980 年代： 岩手の三陸沿岸の多数の地点で記録されるようになった（1985 年以降、一斉調査結果が加わる）。また、オジロワシ同様、宮城の三陸沿岸の志津川湾付近（53 件）で出現記録が大きく増加した（1980 年代後半から銀サケ養殖が盛んになる）。その他、青森の十三湖（8 件）もやや出現が増加した。また内陸では宮城の伊豆沼周辺（16 件）で、出現が増加した。
- 1990 年代： 出現範囲の傾向は 1980 年代と大きな変化はないが、青森の十三湖（27 件）、廻堰ため池（15 件）、岩手の三陸沿岸（小本周辺、大槌湾～釜石湾など、最大 46 件）など各地における出現頻度は増加した。一方、宮城の志津川湾（7 件）の出現は減少した（この時期、銀サケの養殖も大きく減少）。
- 2000 年代： 大きな傾向は 1990 年代と同様であるが、変化が見られた地点として、秋田の八郎潟（最大 24 件）での出現記録の増加が挙げられる。
- 2010 年代： 累積年数が 5 年間であり、記録数は他の年代に比べて少ない。

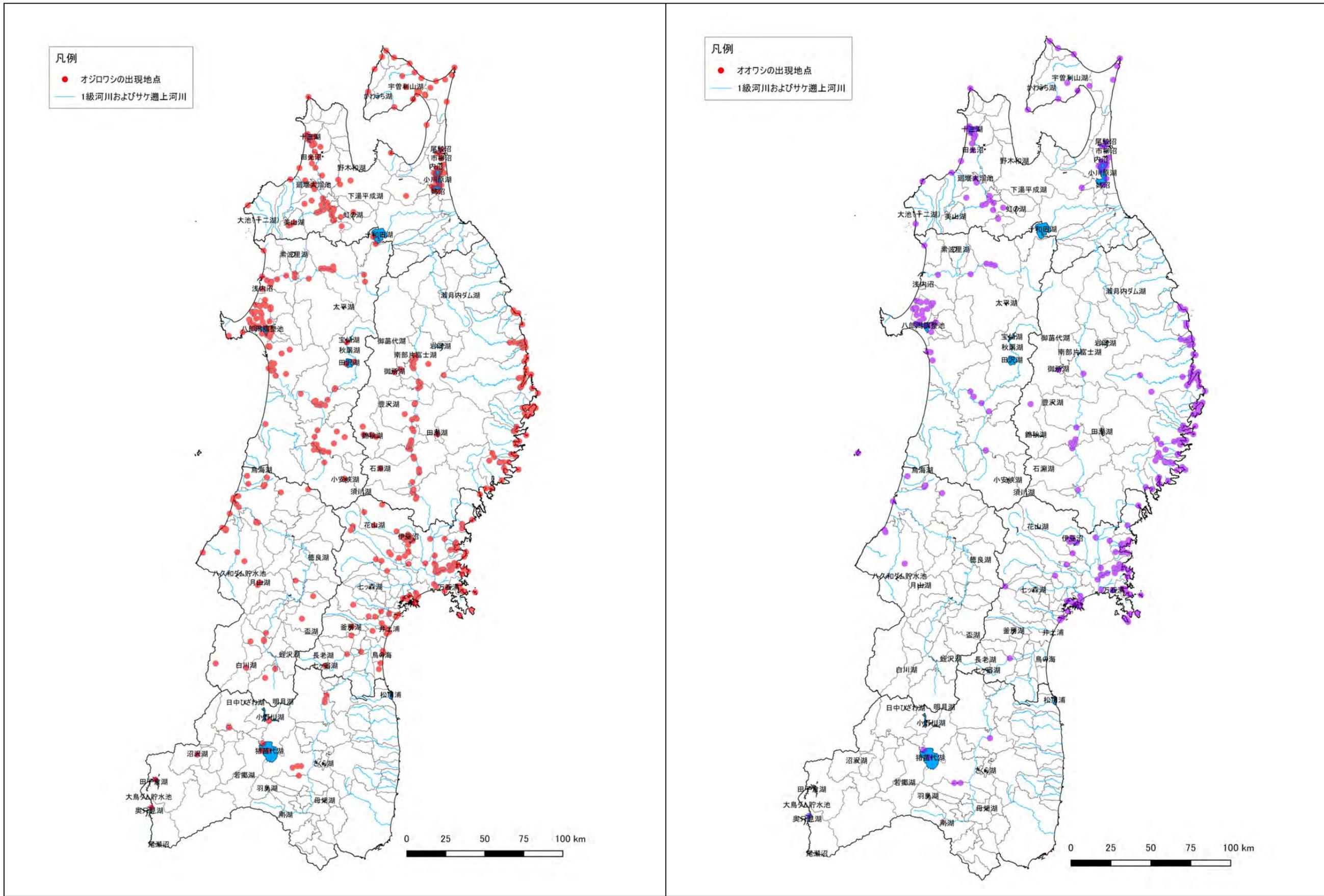


図 2-3-3-1 東北地方におけるオジロワシ(左)、オオワシの出現地点(右): 資料調査結果(1935年~2014年)

(注)出現地点を示す○はおよその範囲を表すもので、一部推定も含まれる。

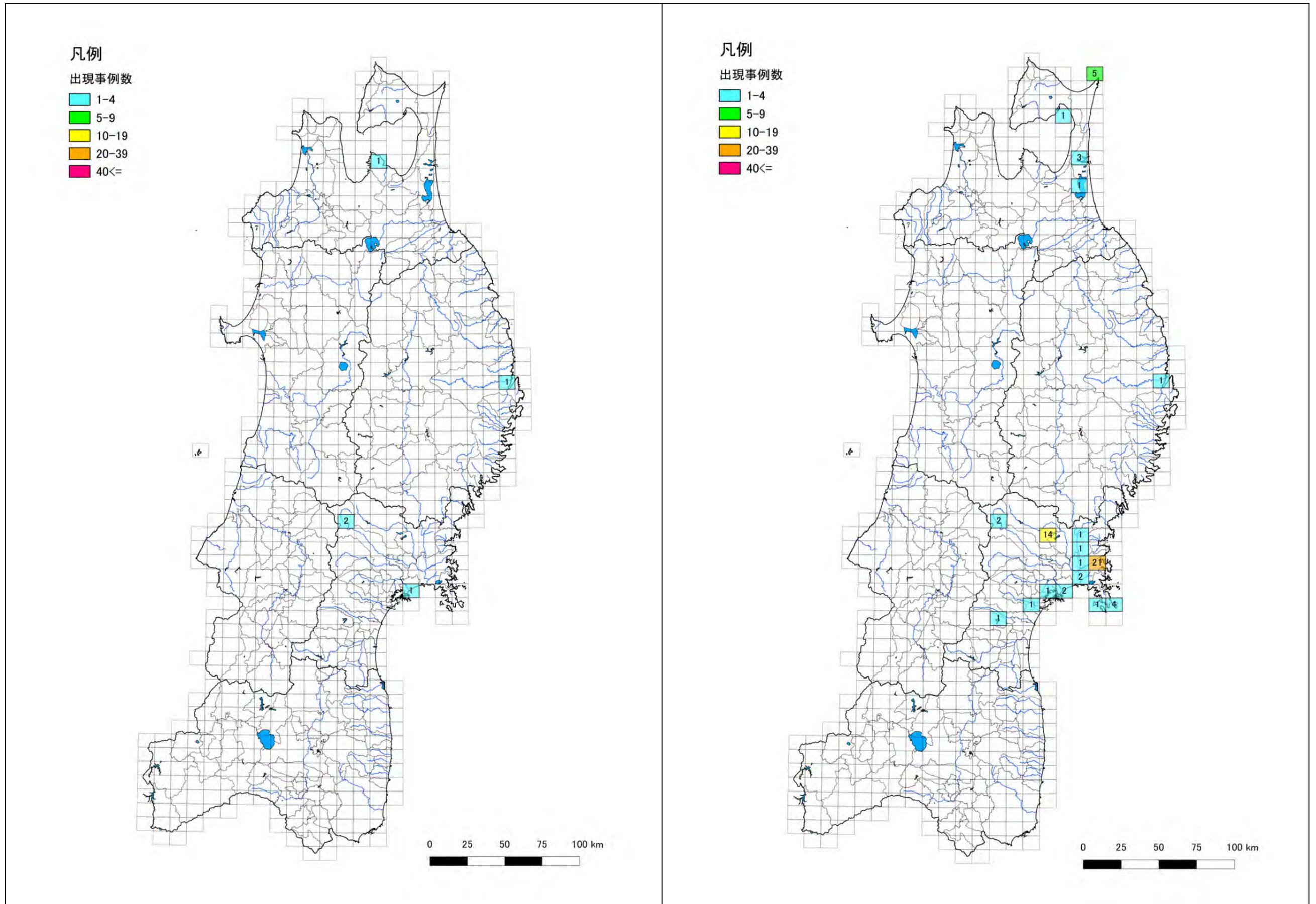
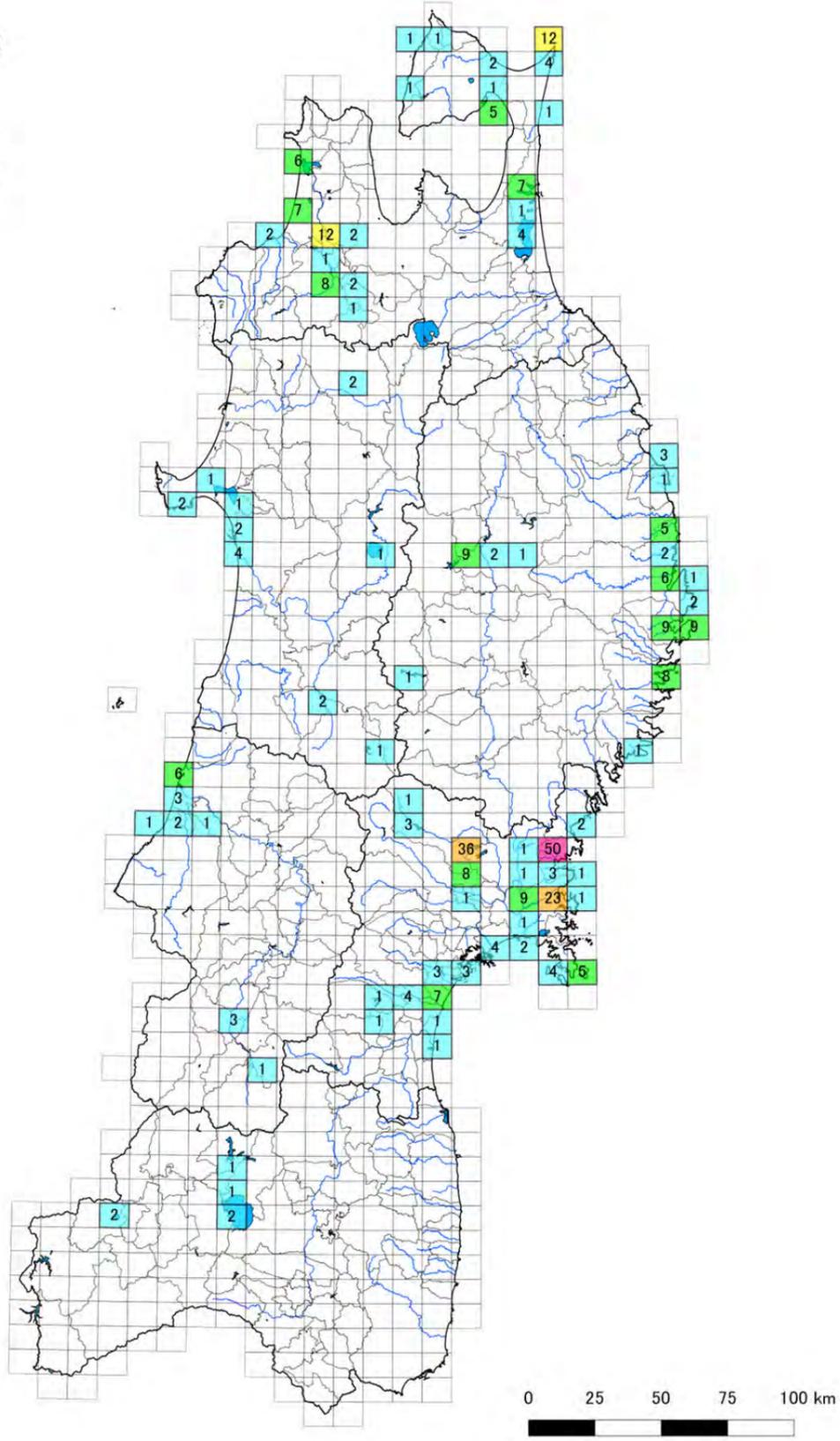


図 2-3-3-2 東北地方におけるオジロワシのメッシュ別出現事例数(左:1969 年以前、右:1970 年代):資料調査結果

凡例

出現事例数

- 1-4
- 5-9
- 10-19
- 20-39
- 40<=



凡例

出現事例数

- 1-4
- 5-9
- 10-19
- 20-39
- 40<=

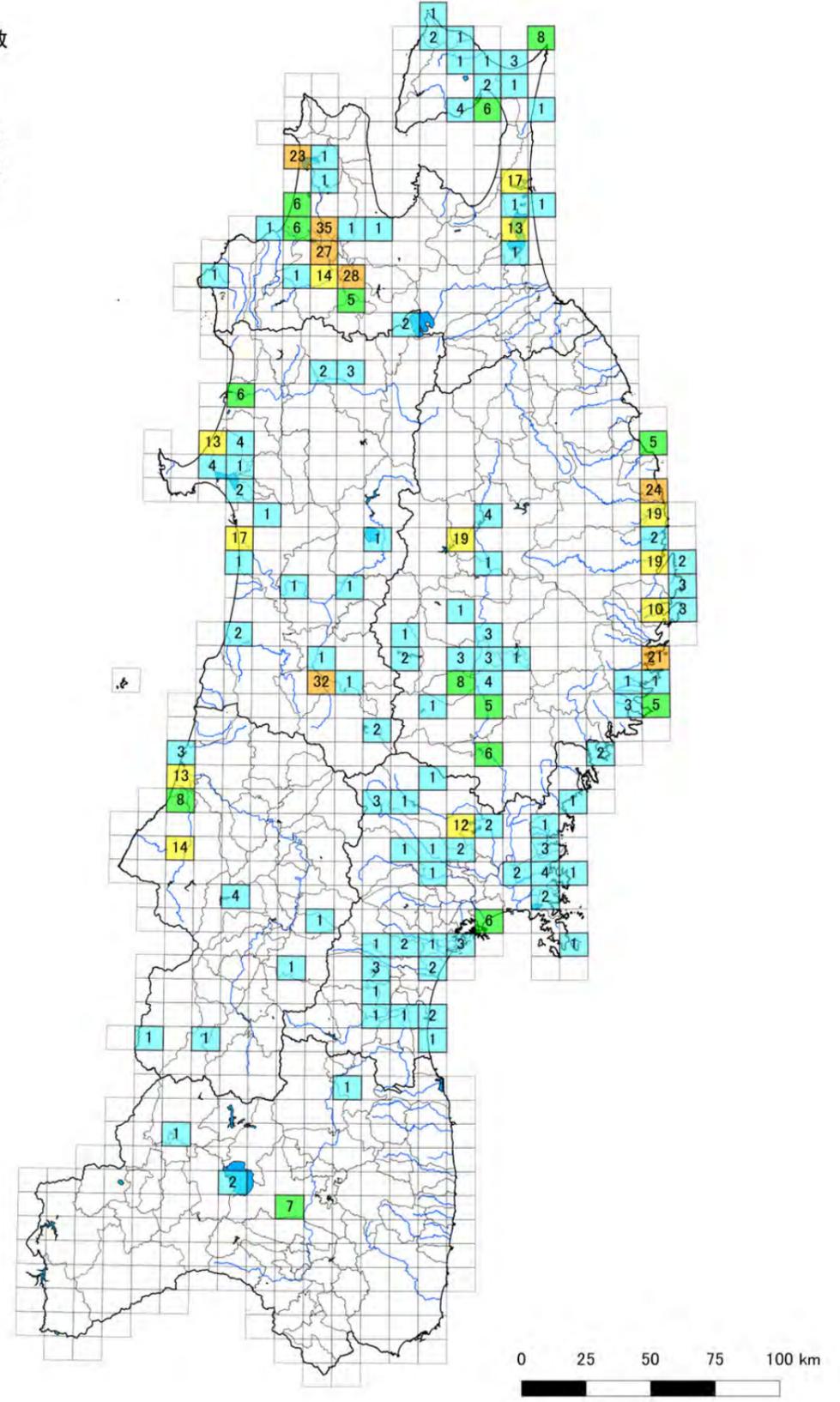
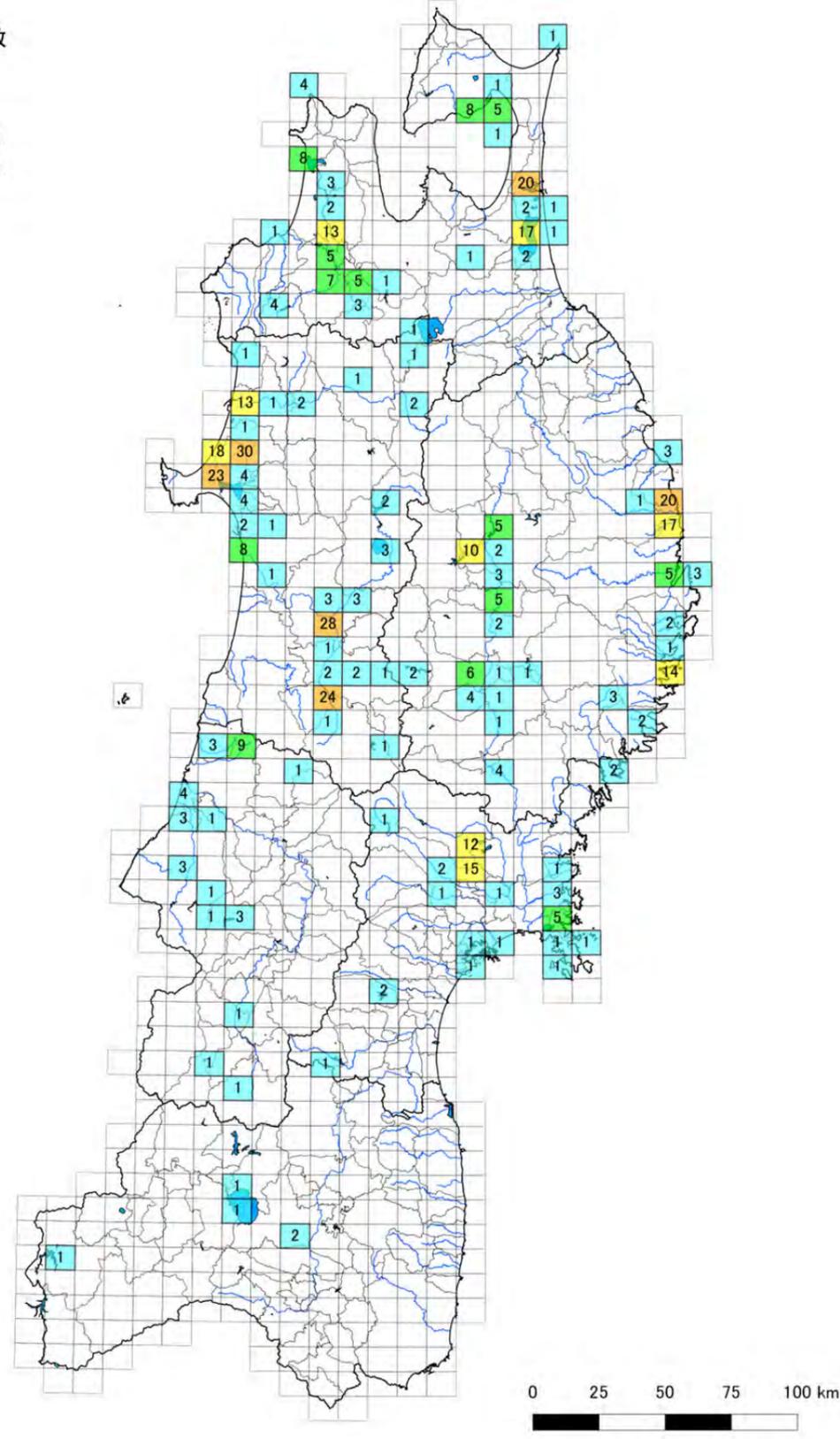


図 2-3-3-3 東北地方におけるオジロワシのメッシュ別出現事例数(左:1980年代、右:1990年代)

凡例

出現事例数

- 1-4
- 5-9
- 10-19
- 20-39
- 40<=



凡例

出現事例数

- 1-4
- 5-9
- 10-19
- 20-39
- 40<=

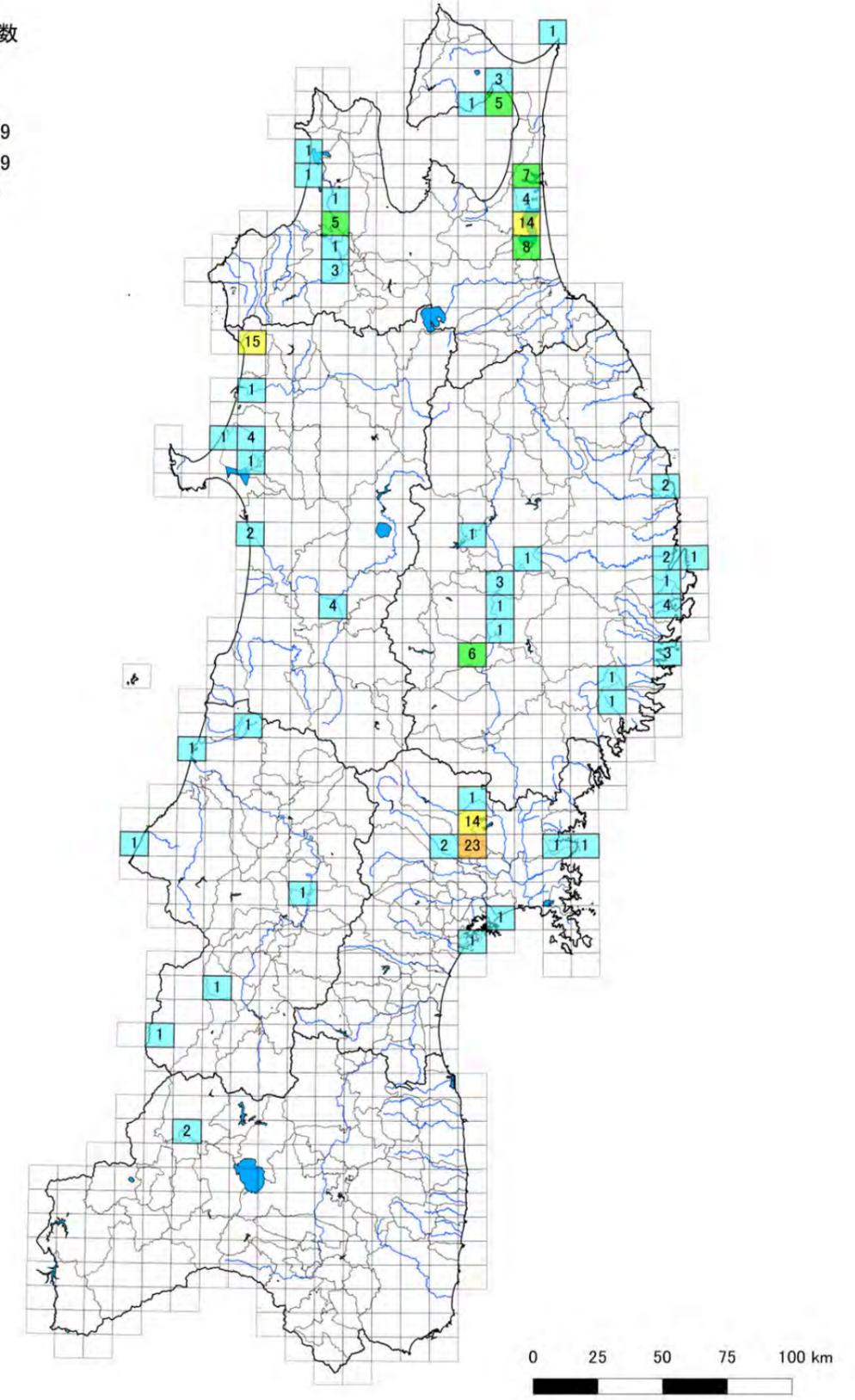
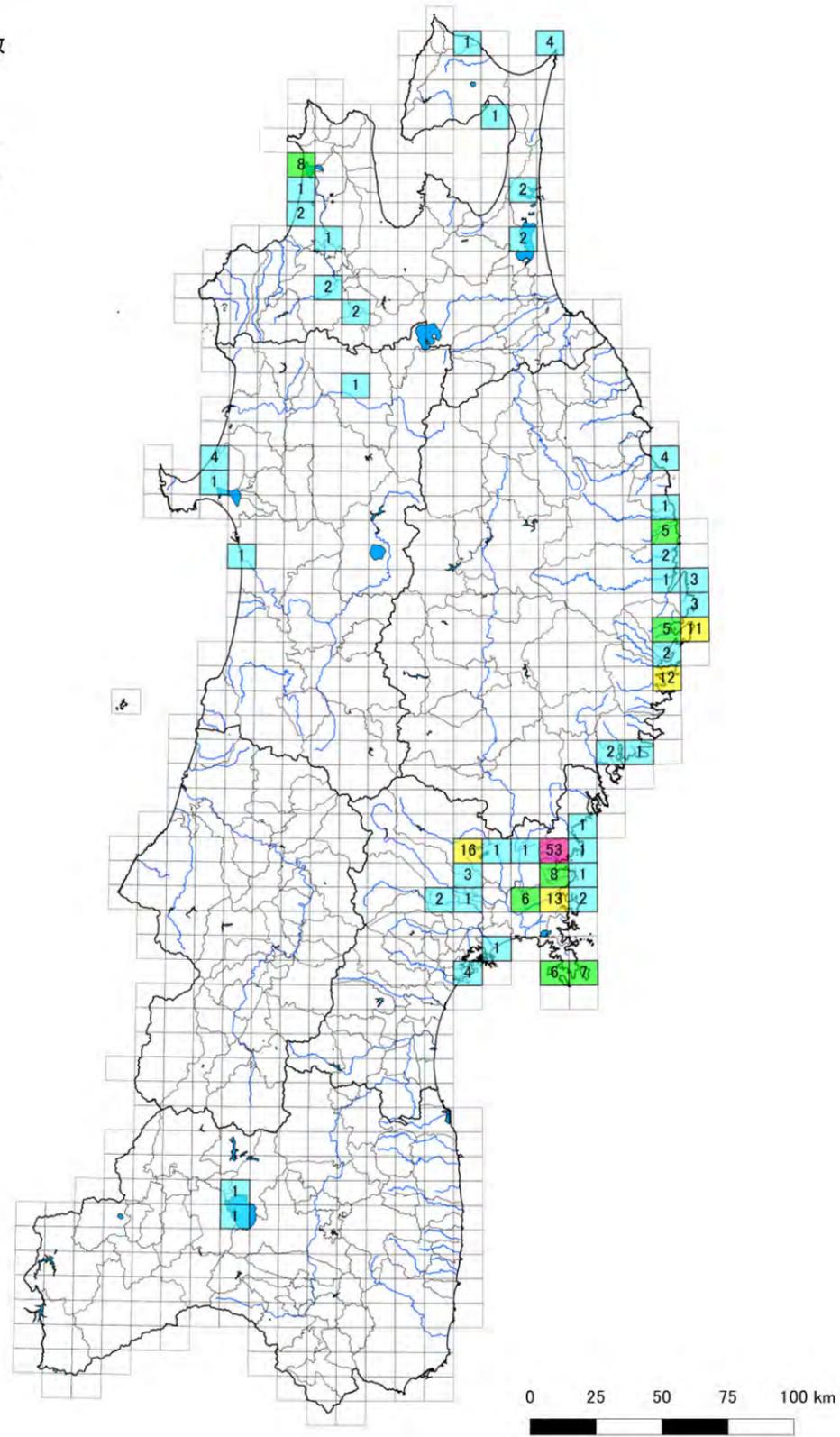


図 2-3-3-4 東北地方におけるオジロワシのメッシュ別出現事例数(左:2000年代、右:2010年代)

凡例

出現事例数

- 1-4
- 5-9
- 10-19
- 20-39
- 40<=



凡例

出現事例数

- 1-4
- 5-9
- 10-19
- 20-39
- 40<=

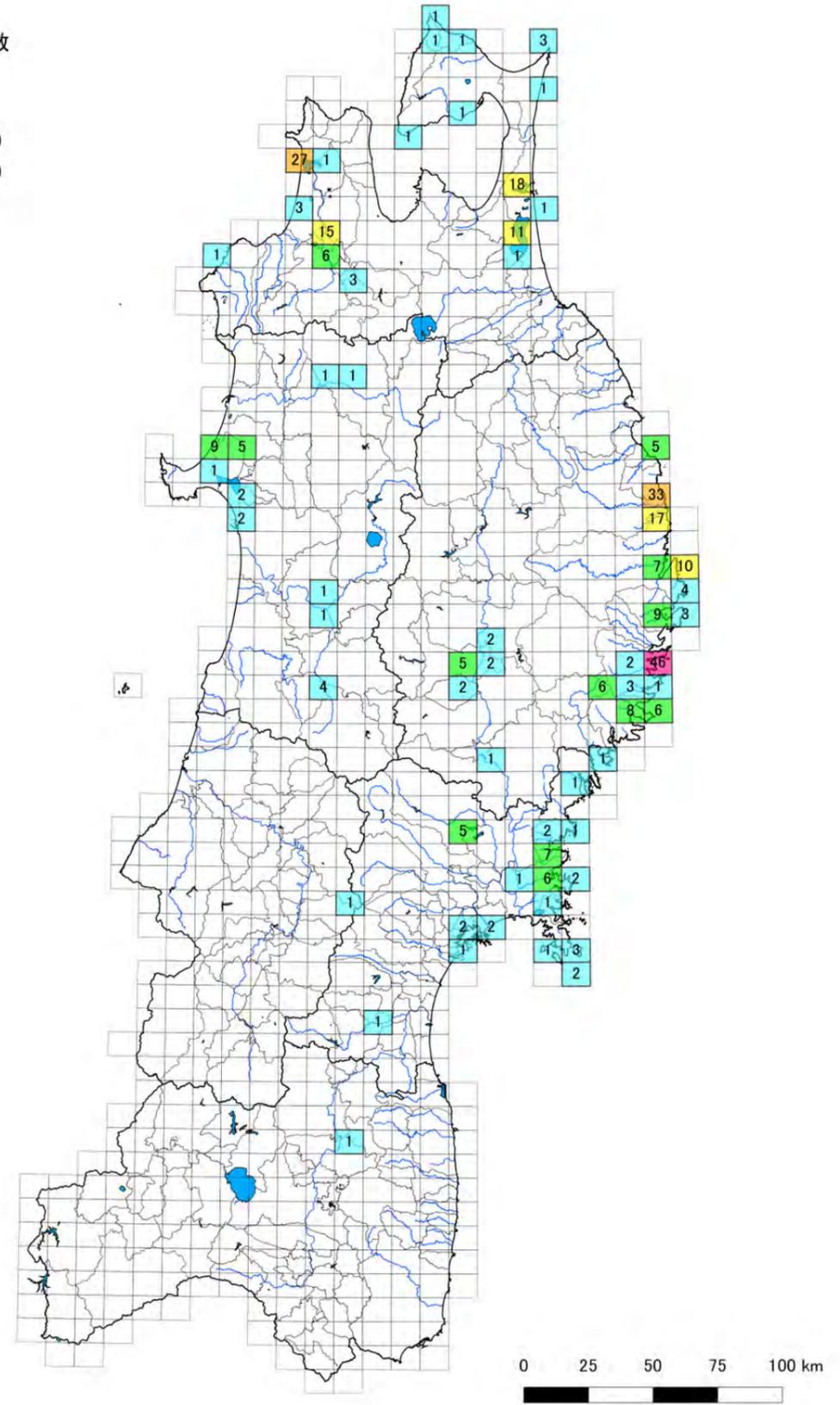
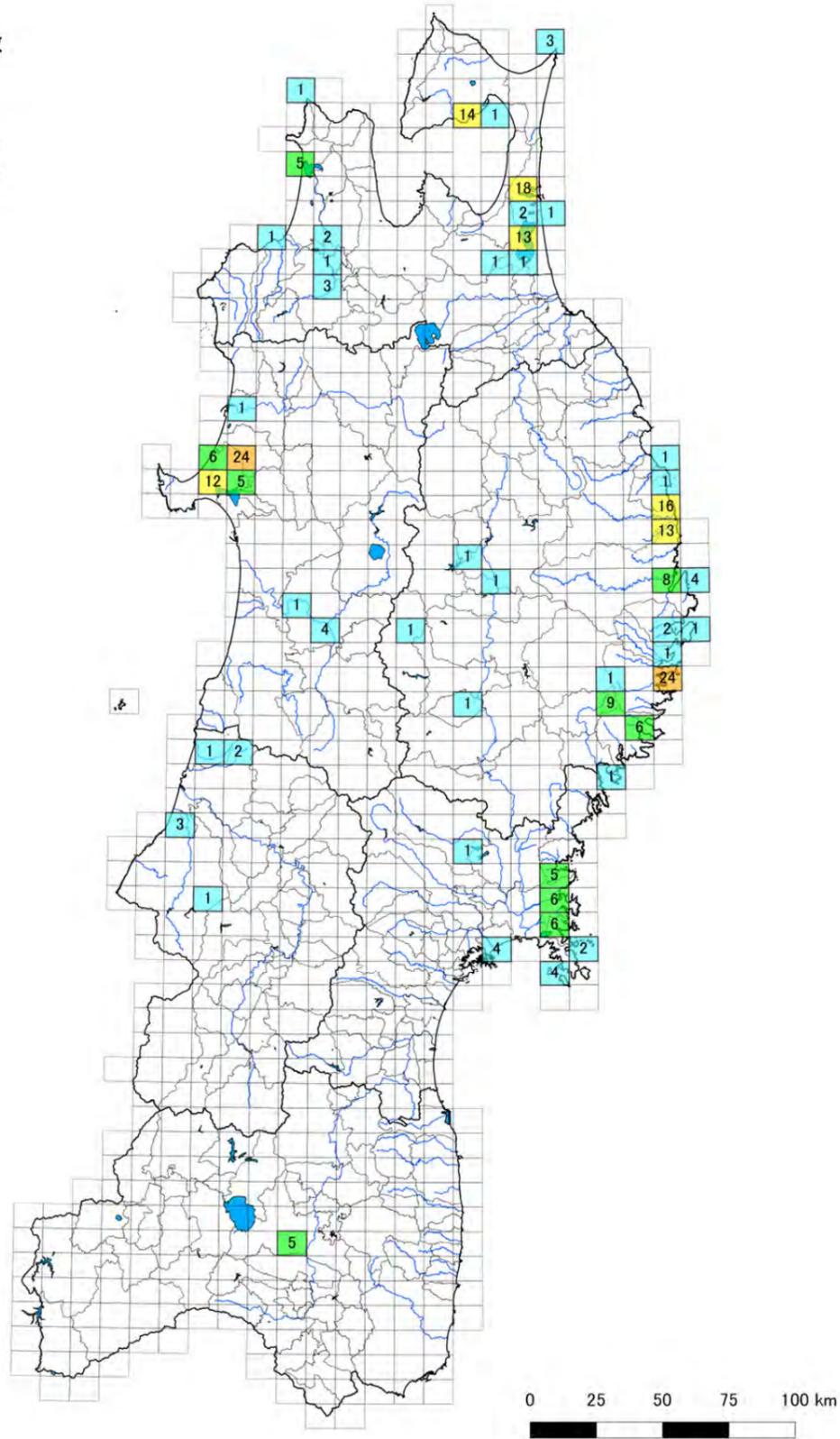


図 2-3-3-6 東北地方におけるオオワシの出現地点と出現事例数(1980年代、1990年代):資料調査結果

凡例

出現事例数

- 1-4
- 5-9
- 10-19
- 20-39
- 40<=



凡例

出現事例数

- 1-4
- 5-9
- 10-19
- 20-39
- 40<=

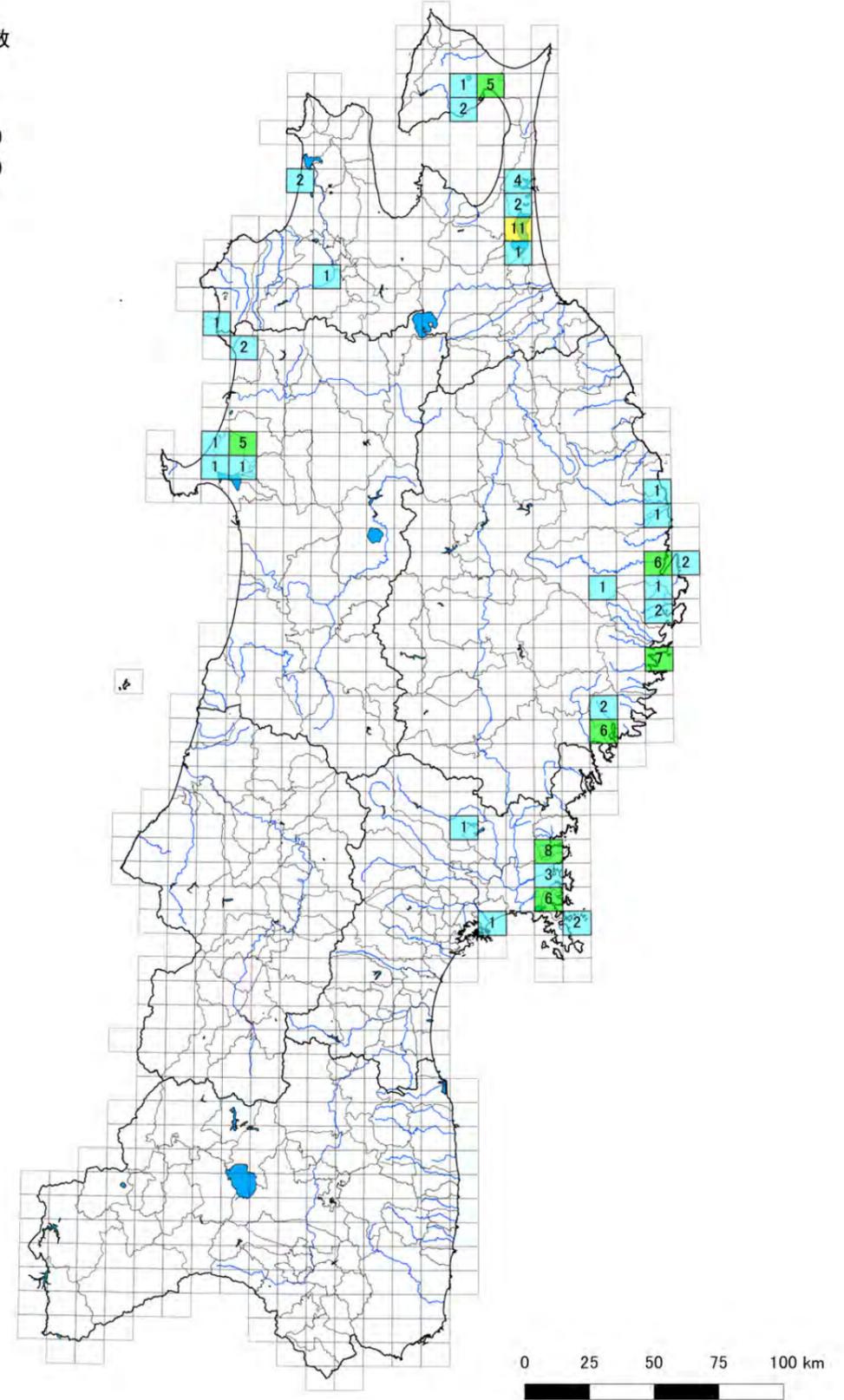


図 2-3-3-7 東北地方におけるオオワシの出現地点と出現事例数(2000年代、2010年代):資料調査結果

(4)出現情報の季節変化

東北地方における海ワシ類の出現情報を月別および県別に集計した（図 2-3-4-1）。

オジロワシ、オオワシ共に 11 月から出現記録が増え始め、オジロワシでは 1 月～3 月、オオワシでは 2 月～3 月に記録件数が多くなる。中でも岩手県の 2 月の値が両種共に突出しているが、これは東北地方における海ワシ類一斉調査が主に 2 月に行われており、岩手県における調査者が多いという背景があるためと考えられる。

オオワシについては、宮城県の 2 月の出現件数も多くなっているが、これも同様の原因によると考えられる。

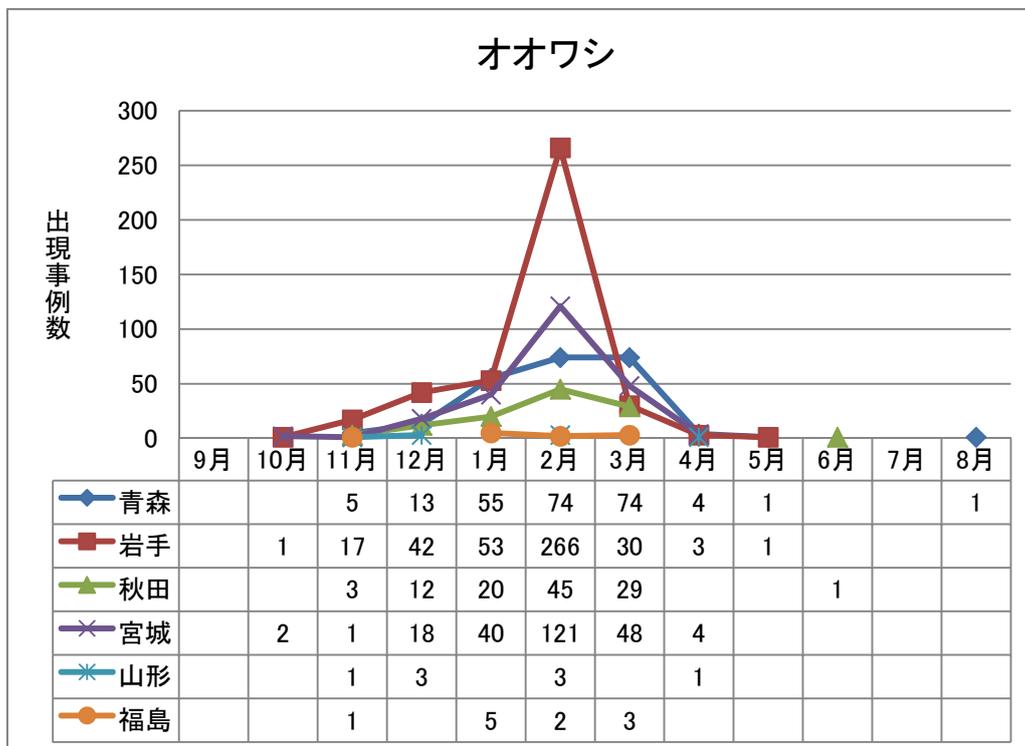
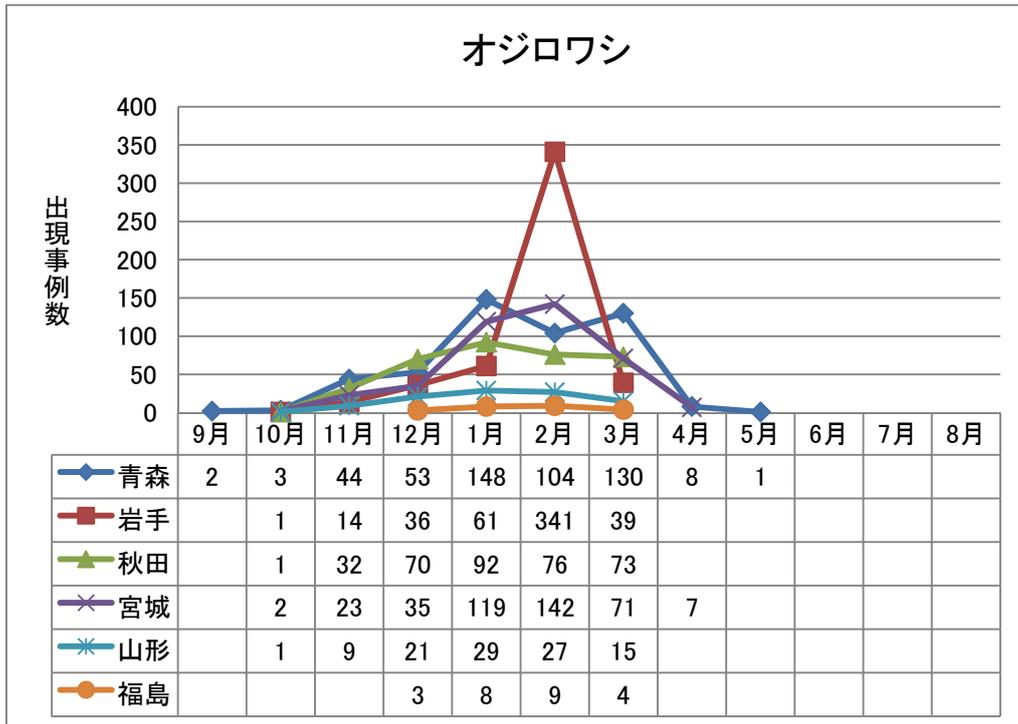


図 2-3-4-1 オジロワシ(上)とオオワシ(下)の月別出現件数(1935年～2014年)

(5) 分布と環境

① 分布と水環境

東北地方におけるオジロワシ、オオワシの分布は、海岸、大きな河川、湖沼など水辺に片寄る傾向が見られる。本項では越冬期の出現地点と水環境との位置関係を整理した。対象とした主な水環境を以下に示したが、オジロワシ、オオワシの出現地点との距離を見ることで、双方の関係性を明らかにした。距離の区分については、1km を基準に、その範囲内と範囲外に分けて集計した。

■ 対象とした主な水辺環境(以下の地点から 1km 範囲)

- ・東北地方の海岸線全線。
- ・東北地方の 1 級河川 (岩木川、高瀬川、馬淵川、北上川、鳴瀬川、名取川、米代川、雄物川、子吉川、最上川、赤川、阿武隈川の 12 河川)。
- ・東北地方の上記 1 級河川以外で、近年サケの捕獲量が多い (捕獲統計が残る) 河川 (大畑川、小本川、閉伊川など 89 河川) (表 2-3-5-1)。
- ・東北地方の主な湖沼 (ダム湖を含む)。

a) オジロワシ

これまでの出現記録のうち海岸線から約 1km 以内で地点数の 23%、事例数の 29% が記録された。また、海岸線を含む主な水辺環境 (海岸線、1 級河川、近年サケ捕獲統計がある河川、主な湖沼、ダム湖) から 1 km 以内とした場合、地点数の 66%、事例数の 71% が、この範囲で記録された (図 2-3-5-1、図 2-3-5-2)。

b) オオワシ

これまでの出現記録のうち海岸線から 1km 以内で、地点数の 45%、事例数の 53% が記録された。また、海岸線を含む主な水辺環境 (海岸線、1 級河川、近年サケ捕獲統計がある河川、主な湖沼、ダム湖) から 1 km 以内とした場合、地点数の 76%、事例数の 82% が、この範囲で記録された (図 2-3-5-1、図 2-3-5-2)。

以上のとおり、オオワシは沿岸部を中心に、水環境に近い位置に多く出現しているのに対して、オジロワシは沿岸部よりも、内陸部の大きな河川や湖沼の近辺を越冬地としている様子が示された。

表 2-3-5-1 (1) 東北地方でサケ類の捕獲量が多い河川

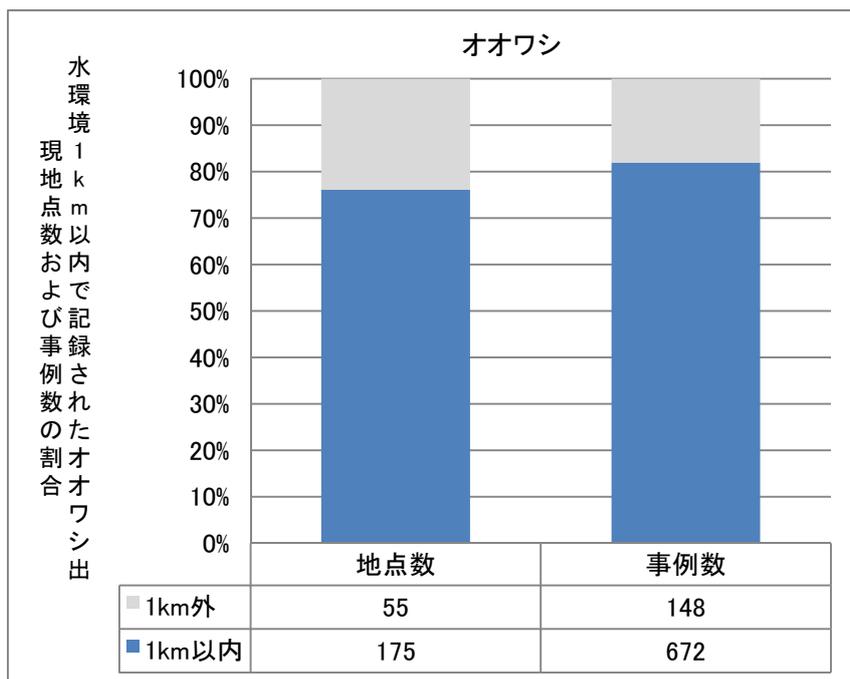
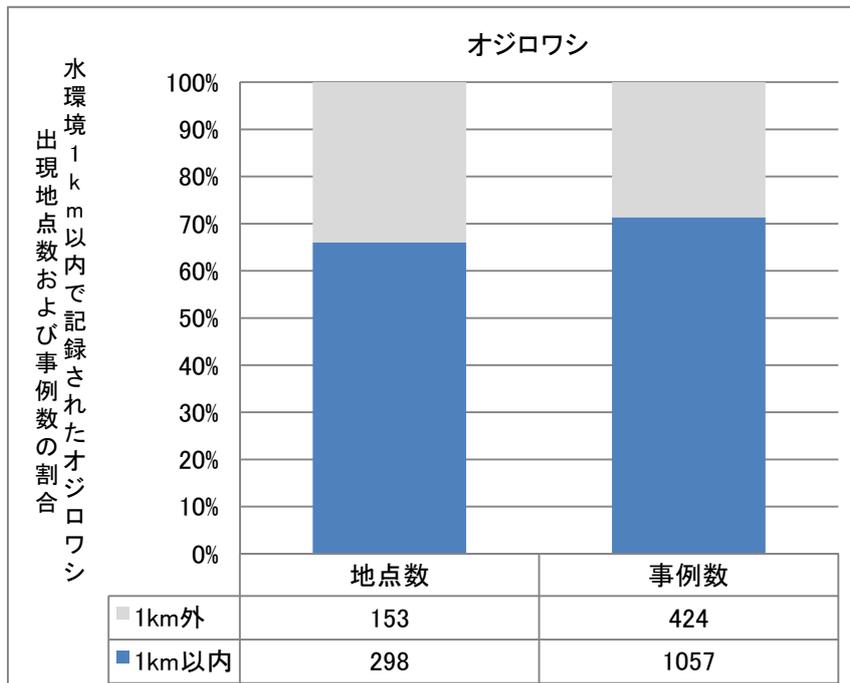
(単位:尾)

県	河川	捕獲数					過去5年間	
		平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	合計	平均
青森	新井田川	18,930	33,972	18,054	32,215	56,886	160,057	32,011
	馬淵川	27,770	49,910	26,317	23,573	26,748	154,318	30,864
	五戸川	1,241	1,318	1,407	1,015	1,629	6,610	1,322
	奥入瀬川	44,562	94,672	48,085	67,475	137,296	392,090	78,418
	老部川(東)	1,586	2,350	3,066	1,537	2,205	10,744	2,149
	大畑川	2,078	2,330	3,152	2,697	1,973	12,230	2,446
	川内川	7,815	15,741	6,525	4,145	7,577	41,803	8,361
	野辺地川	7,391	17,135	10,469	7,231	13,539	55,765	11,153
	清水川	944	3,190	780	709	447	6,070	1,214
	岩木川	400	548	636	0	0	1,584	317
	鳴沢川	0	0	0	0	0	0	0
	中村川	755	1,906	1,563	561	1,155	5,940	1,188
	赤石川	2,137	4,356	2,924	1,066	863	11,346	2,269
	追良瀬川	4,203	8,674	3,239	2,368	1,362	19,846	3,969
吾妻川	0	0	0	0	0	0	0	
笹内川	1,475	1,473	424	581	530	4,483	897	
秋田	真瀬川	1,791	2,447	1,418	0	0	5,656	1,131
	藤琴川	610	1,100	624	535	237	3,106	621
	野村川	3,111	2,195	1,558	1,975	3,727	12,566	2,513
	玉川	3,630	3,449	4,046	3,039	3,706	17,870	3,574
	君ヶ野川	1,310	671	682	0	0	2,663	533
	衣川	715	1,491	684	838	0	3,728	746
	石沢川	7,740	21,686	7,316	11,481	5,470	53,693	10,739
	鮎川	447	717	616	536	77	2,393	479
	西目川	1,264	1,466	479	0	0	3,209	642
	奈曾川	4,701	9,945	5,408	5,525	6,639	32,218	6,444
川袋川	20,156	36,948	22,452	25,587	17,850	122,993	24,599	
山形	月光川	46,760	105,574	75,836	93,522	112,161	433,853	86,771
	最上川	6,799	11,144	8,373	9,833	8,212	44,361	8,872
	日向川	2,594	3,589	2,923	1,637	2,463	13,206	2,641
	赤川	3,515	8,702	4,317	2,468	3,303	22,305	4,461
	五十川	694	1,174	542	315	904	3,629	726
	その他	129	203	189	27	501	1,049	210
	岩手	川尻川	5,142	4,728	2,076	682	151	8,139
有家川	20,075	26,869	11,703	6,493	6,564	61,161	12,232	
高家川	2,775	3,320	3,228	1,395	1,885	11,941	2,388	
久慈川	26,636	46,118	20,204	21,822	19,093	136,674	27,335	
宇部川	8,048	9,326	1,674	64	0	11,569	2,314	
安家川	53,564	91,196	59,368	42,764	57,020	310,167	62,033	
普代川	2,068	3,446	2,415	454	528	7,741	1,548	
明戸川	983	2,943	2,619	173	0	7,520	1,504	
小本川	72,927	114,981	45,344	28,819	28,450	246,470	49,294	
撰待川	46,912	54,882	11,014	10,110	7,568	90,192	18,038	
田老川	59,643	81,350	28,534	15,804	25,906	171,345	34,269	
閉伊川	44,998	61,895	24,373	21,104	19,215	147,352	29,470	
津軽石川	128,567	197,382	111,664	59,558	53,265	505,610	101,122	
重茂川	24,141	48,888	14,056	5,343	7,598	82,159	16,432	
大沢川	4,118	7,692	2,952	962	556	13,452	2,690	
関口川	5,890	8,395	3,907	2,848	1,244	20,280	4,056	
織笠川	21,322	26,793	18,066	11,244	11,142	80,022	16,004	

表 2-3-5-1 (2) 東北地方でサケ類の捕獲量が多い河川

(単位:尾)

県	河川	捕獲数					過去5年間	
		平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	合計	平均
岩手	小釜川	2,966	2,780	710	0	0	3,490	698
	大釜川	26,625	31,052	16,306	3,364	5,695	65,999	13,200
	鶴住居川	15,426	26,667	14,323	266	1,138	47,041	9,408
	甲子川	25,420	45,500	21,906	5,566	6,191	99,884	19,977
	片岸川	40,670	72,757	45,163	22,806	17,137	193,243	38,649
	熊野川	7,740	19,255	7,064	7,526	9,213	57,098	11,420
	吉浜川	18,634	23,598	16,203	6,163	5,734	60,521	12,104
	浦浜川	3,950	11,448	4,206	2,305	4,149	32,289	6,458
	綾里川	19,733	23,594	4,366	0	3,335	47,672	9,534
	盛川	13,281	24,012	20,941	17,388	18,003	120,847	24,169
	気仙川	85,064	72,802	41,644	50,825	41,146	268,919	53,784
北上川	9,249	8,228	7,376	8,970	7,374	39,314	7,863	
宮城	気仙沼大川	77,092	63,708	41,304	24,424	15,288	161,985	32,397
	小泉川	58,002	83,955	29,343	14,257	16,270	174,905	34,981
	八幡川	8,264	9,487	4,691	5,670	4,687	29,035	5,807
	水尻川	9,575	16,151	7,216	8,713	3,991	38,901	7,780
	折立川	0	0	0	0	0	0	0
	水戸辺川	4,921	4,895	2,232	0	209	7,882	1,576
	旧北上川	49,915	50,460	49,427	51,254	51,065	253,132	50,626
	二股川	1,235	1,184	1,164	588	926	4,607	921
	大関川	0	0	0	0	0	0	0
	南沢川	0	0	0	0	0	0	0
	新北上川	11,073	13,392	9,318	10,216	12,873	57,758	11,552
	真野川	1,143	914	1,308	1,264	1,703	6,661	1,332
	追波川	864	1,642	1,022	157	77	3,515	703
	迫川	7,961	9,993	11,167	17,567	14,299	66,705	13,341
	江合川	24,751	30,374	13,080	25,861	12,371	100,644	20,129
	大原川	338	150	0	0	1,201	2,094	419
	御前川	634	731	466	0	0	1,197	239
	後川	794	1,328	640	0	757	2,725	545
	鳴瀬川	5,824	2,279	2,920	6,841	7,707	27,113	5,423
	吉田川	1,978	1,936	3,109	4,760	3,232	17,186	3,437
	高城川	1,841	1,131	1,990	20	0	3,141	628
	七北田川	2,132	1,647	926	693	1,047	6,783	1,357
	名取川	1,869	2,740	1,960	7,870	4,073	20,592	4,118
白石川	655	621	667	1,967	2,005	8,104	1,621	
雉子尾川	552	647	345	582	526	2,876	575	
阿武隈川(上流)	723	689	341	396	163	1,816	363	
阿武隈川(内川)	361	638	538	648	891	4,479	896	
阿武隈川(下流)	10,285	11,389	7,737	10,914	11,871	53,595	10,719	
福島	夏井川	3,130	2,722	2,598	3,023		13,046	2,609
	新田川	10,204	9,298	3,630	0		30,761	6,152
	真野川	11,312	9,455	7,655	20,331		62,805	12,561
	宇多川	17,434	16,786	12,610	25,334		103,693	20,739
	阿武隈川	1,164	2,403	1,395	2,175		11,040	2,208
	木戸川	127,922	84,782	0	0		315,097	63,019
	富岡川	4,499	4,500	0	0		13,498	2,700
	熊川	19,993	25,891	0	0		64,950	12,990
	請戸川	81,494	64,924	0	0		240,986	48,197
	小高川	5,695	5,222	0	0		15,927	3,185
井出川	0	0	0	0		2,235	447	



注) 主な水環境: 海岸線、1級河川、近年サケ捕獲統計がある河川、主な湖沼、ダム湖

図 2-3-5-1 主な水環境から1km以内で記録されたオジロワシ(上)・オオワシ(下)の出現地点数および事例数の割合

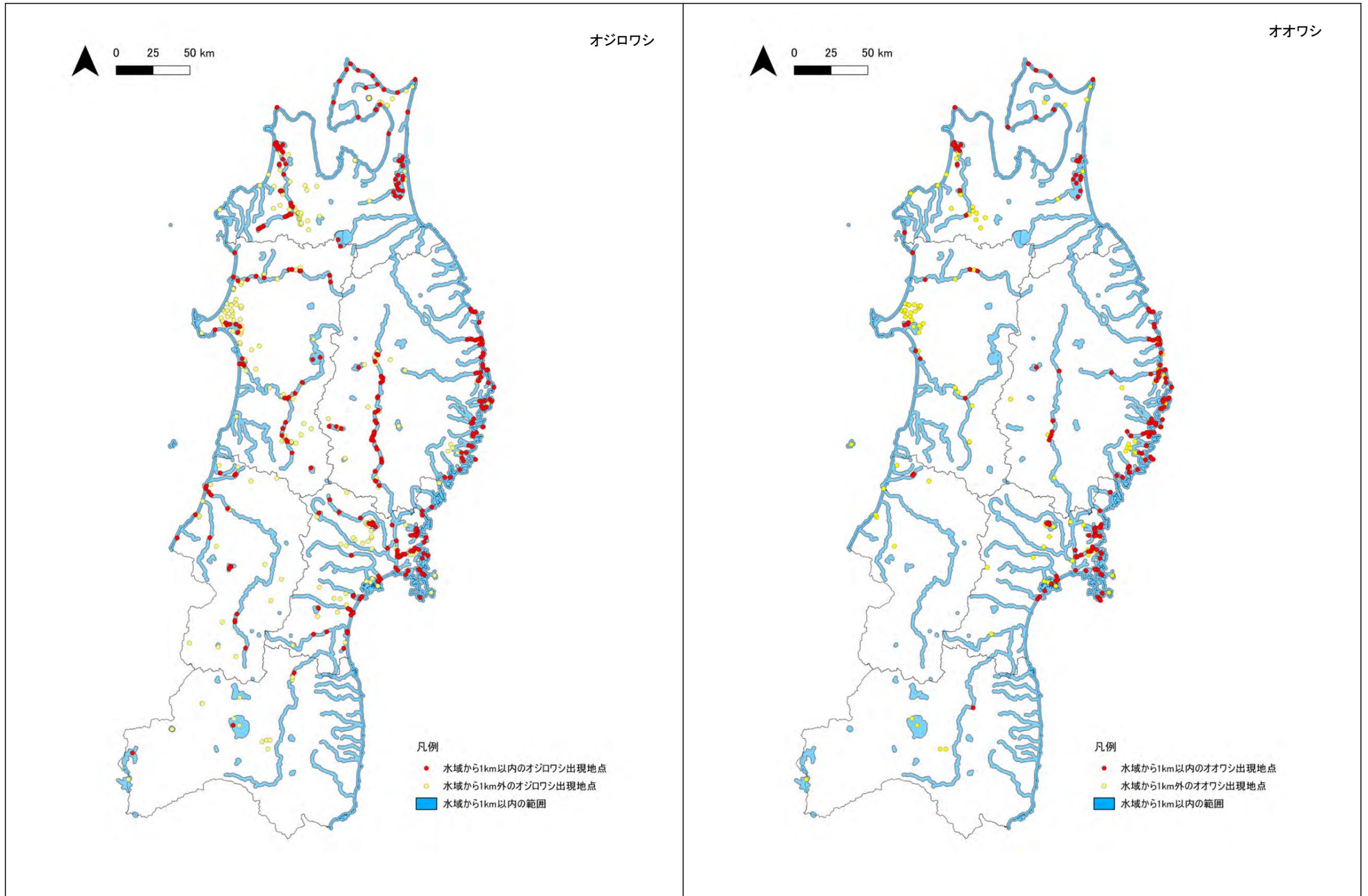


図 2-3-5-2 東北地方における主な水辺環境から 1km 範囲とオジロワシ(左)、オオワシ(右)の出現地点

② 分布と餌資源

前述した通り、東北地方において越冬するオジロワシ、オオワシは、水環境の近くに生息することが示された。その背景には、両種が主に魚類や水鳥類を餌として生活しているという事情がある。オジロワシ、オオワシが利用する餌について、資料および聞き取り調査の情報から抽出、整理した（表 2-3-5-2、表 2-3-5-3、図 2-3-5-3）。

オオワシはオジロワシに比べて、生きた鳥類を捕獲することは少ない。

特にサケが遡上する河川やカモ類、ガン類など水鳥が越冬する河川や湖沼は、毎年安定した餌資源を確保できるため、オジロワシ、オオワシにとって重要な餌場と考えられる。

a) 魚類

海ワシ類は河川、湖沼、湾近くの止まり木などのハンティングポイントに止まって獲物を探し、狙った魚（ニゴイ、マブナ、オオクチバス等）を捕獲する。ハンティングポイントは狩りをする上で重要な場所である。生きた魚を直接捕獲する以外に、河川で産卵を終えて弱ったサケ類、漁業や養殖業の過程で廃棄される魚を餌として利用する（宮城の志津川湾周辺の海上廃棄された養殖銀サケ、八郎潟の氷上漁で捨てられる雑魚）。特にサケ類などの大型魚類は、カモメ類では搬送できないため、海ワシが優先的に利用しやすい。

b) 鳥類

越冬中のガン類、カモ類、ハクチョウ類を捕獲する。これらの生きた水鳥類を餌として利用する場合、ガンカモ類、ハクチョウ類では群れの中の衰弱した個体、あるいは夜間に水面が凍り、日の出後、すぐには飛び立てない個体などを捕獲する。

c) 哺乳類

哺乳類では主に死体を利用している。岩手県の五葉山周辺などで駆除されたシカの死体、イルカ漁で廃棄される内臓、海岸に漂着するアザラシやオットセイなどが知られている。

d) 家畜

養鶏場から出た廃鶏や廃牛を利用することが知られている。

e) その他

オジロワシ、オオワシは、生きた獲物を直接捕獲する以外に、他の猛禽類（オオタカやハヤブサ）から獲物（カモ類など）を横取りすることがある。

表 2-3-5-2 (1) 確認されたオジロワシ・オオワシの狩りおよび捕食事例(文献資料調査)

No	種名	県	確認場所	確認年月日	年齢別	個体数	行動	出典
1	オオワシ	青森	廻堰大溜池	1990/11/13	幼鳥	1	カモを狩る	日本野鳥の会弘前支部(1991)
2	オオワシ	岩手	宮古港	2011/1/18		1	アナゴ獲る	日本野鳥の会宮古支部(2011)
3	オオワシ	岩手	宮古港	2013/3/6		1	スケトウタラ掴んで搬送	日本野鳥の会宮古支部(2013)
4	オジロワシ	青森	芦崎	1990/1/1	幼鳥	1	地上で何か食べる	阿部(未発表)
5	オジロワシ	青森	砂沢溜池	1993/2/1		1	ハクチョウを捕食	川口(1996)
6	オジロワシ	青森	砂沢溜池	1994/12/31		1	コウノトリを襲う	川口(1996)
7	オジロワシ	秋田	角間～雄物川合流点	2004/12/19		1	カモを狩る	日本野鳥の会秋田県支部(未発表)
8	オジロワシ	秋田	高屋	2005/1/17		1	採餌中	日本野鳥の会秋田県支部(未発表)
9	オジロワシ	秋田	河口中州	2008/3/1	成鳥	1	採餌中	日本野鳥の会秋田県支部(未発表)
10	オジロワシ	岩手	御所湖	1989/3/5		2	カモを捕食	日本野鳥の会盛岡支部(1989)
11	オジロワシ	岩手	中津・雫石・北上川の合流点	2002/3/12			カモを追い回す	日本野鳥の会もりおか(2002)
12	オジロワシ	岩手	小本川中洲	2007/2/4	成鳥	2	サケを食べる	日本野鳥の会宮古支部(2007)
13	オジロワシ	宮城	伊豆沼	1990/1/28			氷上でカモを食べる	日本野鳥の会宮城県支部(1990)
14	オジロワシ	宮城	蕪栗沼	2012/12/24	成鳥	2	カモ類を食べる	ブログ①
15	オジロワシ	宮城	化女沼	2014/1/24		1	カモを追いかける	ブログ③
16	オジロワシ	宮城	蕪栗沼	2012/12/25	成鳥	1	採食	ブログ②
17	オジロワシ	山形	升田	2002/1/14	成鳥	1	探餌?	NPO 法人猛禽類保護ネットワーク(未発表)
18	オジロワシ	山形	最上川河口	2014/1/20	成鳥	1	飛翔、探餌、ハンティング失敗	NPO 法人猛禽類保護ネットワーク(未発表)

表 2-3-5-2 (2) 確認されたオジロワシ・オオワシの狩りおよび捕食事例(文献資料調査)

No	種名	県	確認場所	確認年月日	齢別	個体数	行動	出典
19	オジロワシ	岩手	詳細地点不明	1983/1/29			マガモ♀を襲撃するも失敗	日本野鳥の会盛岡支部(1983)
20	オジロワシ	岩手	詳細地点不明	2007/2/18	成鳥	2	サケを食べる	ブログ④
21	オオワシ	岩手	詳細地点不明	2010/1/24	成鳥	1	サケを獲る	ブログ⑤
22	オオワシ	岩手	詳細地点不明	2008/2/19	成鳥	1	サケを食べる	ブログ⑥
23	オオワシ	岩手	詳細地点不明	2008/2/19	幼鳥	1	サケを食べる	ブログ⑥
24	オオワシ	岩手	詳細地点不明	2011/12/24	成鳥	1	海上で魚を獲る	ブログ⑦
25	オオワシ	岩手	詳細地点不明	2012/11/22	成鳥	1	海上で魚を獲る	ブログ⑧

(注)No.19 ~25 は、確認した詳細地点が未記載のため、図には落としていない。

ブログ① <http://vulvulzerzer.blog58.fc2.com/blog-date-20130118.html>

ブログ② <http://hisappi.com/aomori/pic/day/20061125nakadomari/20061125-ojirowasi.htm>

ブログ③ <http://ecopal-kejonuma.no-blog.jp/>

ブログ④ <http://ihatovnote.exblog.jp/5142529/>

ブログ⑤ <http://ihatovnote.exblog.jp/m2010-01-01/>

ブログ⑥ <http://ihatovnote.exblog.jp/6810250/>

ブログ⑦ <http://tselkwa.blog.fc2.com/blog-entry-1.html>

ブログ⑧ <http://redsharks4111.blog.fc2.com/blog-entry-302.html>

表 2-3-5-3 確認されたオジロワシ・オオワシの狩りおよび捕食事例(聞き取り調査)

No	種名	県	確認場所	行動	情報源
1	オオワシ、 オジロワシ	青森	大畑川、川内川	9月～12月は遡上するサケを狙って飛来。	関下(2014.1.23)
2	オジロワシ	青森	平川	オジロワシが毎年飛来、河川の大型魚類(ニゴイ)などを捕獲。捕獲の際、河川沿いの高木は狩りの止まり木として利用されるため重要。	成田(2014.2.6)
3	オジロワシ	青森	三沢、八戸、十和田周辺	牧場からでる廃牛の死体処理施設にオジロワシが飛来し、死体を餌として利用。	宮(2014.2.5)
4	オジロワシ	秋田	富田	養鶏場からでる廃鶏を主にオジロワシが餌とする。	西出(2014.1.27)
5	オジロワシ、 オオワシ	秋田	小友沼	負傷したマガンやヒシクイを襲うことがある。	西出(2014.1.27)
6	オジロワシ、 オオワシ	秋田	八郎潟	オオクチバスや春先に酸欠で死ぬカムルチーを餌とする。また氷下漁で捨てられる雑魚(コイ、マブナ、オオクチバス等)を餌とする。	加賀谷(2014.2.14)
7	オジロワシ オオワシ	岩手	普代川	以前は海ワシが飛来したが、サケ遡上量の減少に伴い、飛来も減少。	佐々木(2014.1.15)
8	オジロワシ オオワシ	岩手	小本川、摂待川、 閉伊川	9月～12月は遡上するサケを狙って飛来。しかし2011年の津波で狩りに使っていた止木の多くが消失し、海ワシの飛来も減少。	佐々木(2014.1.15)
9	オジロワシ オオワシ	岩手	宮古～釜石の10 ～20km 沖合	イルカ漁の際、海上で廃棄される残渣(内臓)を餌とする。	佐々木(2014.1.15)
10	オジロワシ オオワシ	岩手	御箱崎～三貫島	アザラシやオットセイ死体など海ワシの餌となる漂着物が多い。	佐々木(2014.1.15)
11	オジロワシ オオワシ	岩手	五葉山	狩猟等で捕獲されたシカの残渣を海ワシが利用している。特に雪解時期に多い。	佐々木(2014.1.15)
12	オジロワシ オオワシ	宮城	志津川湾、女川 湾	湾内で養殖される銀サケの死体(海上に廃棄されたサケ)などを餌としていた。※2011年の震災以前、当該地は日本有数の銀サケ養殖地。	三浦(2014.1.14)
13	オジロワシ オオワシ	宮城	伊豆沼、内沼、燕 栗沼	早朝、足元が氷結して動けないカモ類等を襲う。その他、オオタカ、ハヤブサが捕獲した鳥を横取りする。	戸嶋(2014.1.24)

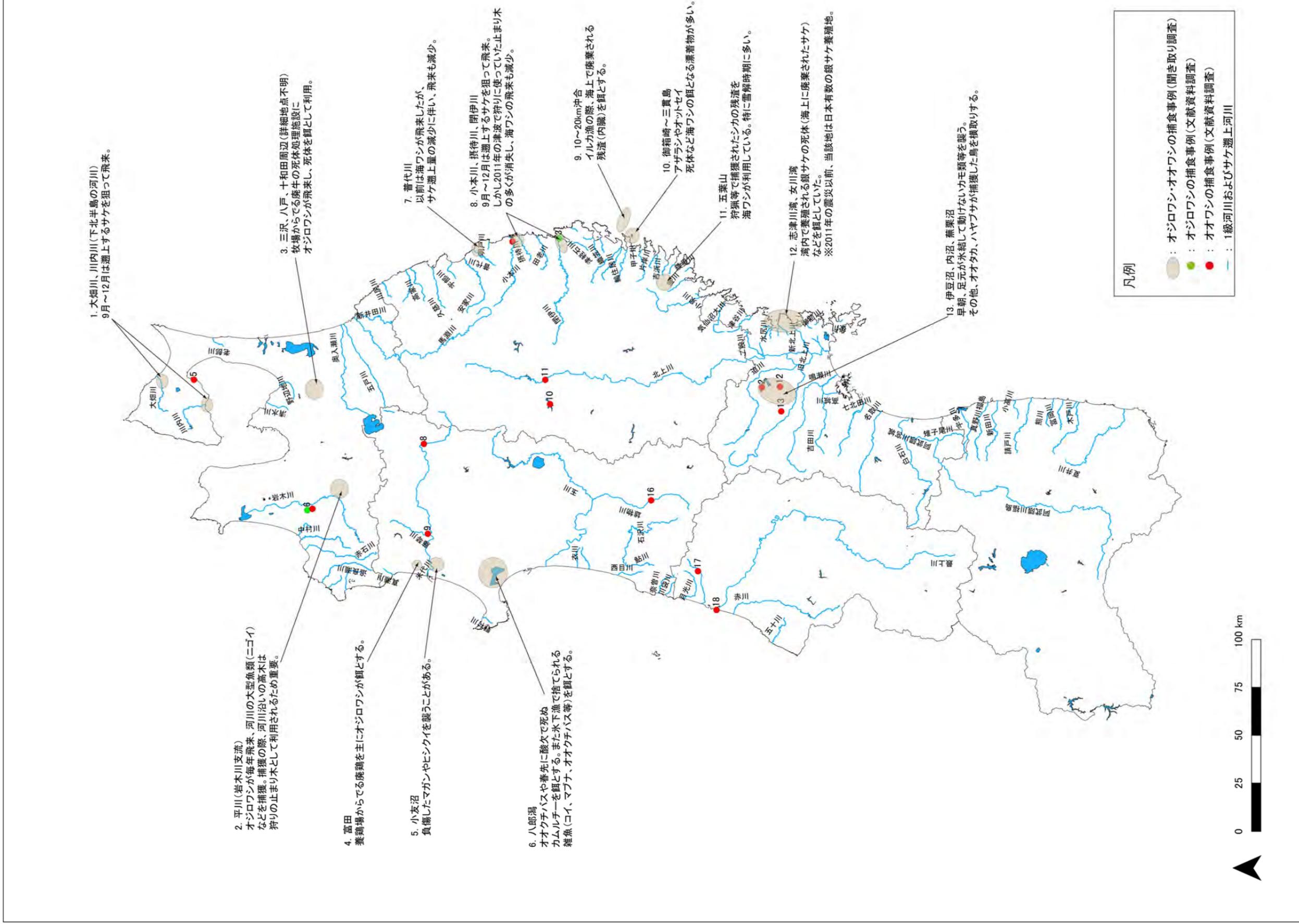


図 2-3-5-3 東北地方におけるオジロワシ・オオワシの餌資源利用状況(文献資料および聞き取り情報に基づく)

(6) 渡り経路

聞き取り調査、資料調査ならびに現地調査によって得られた海ワシ類の東北地方における渡り経路（推定経路を含む）を以下に示す（表 2-3-6-1、図 2-3-6-1）。

表 2-3-6-1 東北地方における海ワシ類の渡り経路に関する情報

番号	地名	渡りの状況	情報元
1	竜飛崎	毎年、オジロワシ、オオワシが春と秋に津軽海峡を渡る記録あり(タカ渡り全国ネットワーク情報)。	WEB① 宮(聞き取り、2014.2.5)
2	大間崎	オジロワシ 1羽が北へ渡る(2014.3.31、9:52)。	現地調査(2014.3.31)
3	尻屋崎	3月末、複数のオジロワシ、オオワシが上空を通過。	由井(聞き取り 2014.1.14) 阿部(未発表)
4	岩木山南東	岩木山南東側をオジロワシ、オオワシが渡る。白神山地を越える経路はガンカモ類の渡り経路(海ワシの場合は推定経路)。	小山(聞き取り 2014.2.5) 青森県環境保健部自然保護課(1977)
5	太平洋～雄物川上流の秋田県内陸部	太平洋～森吉四季美湖上空を毎年オジロワシが渡る。四季美湖～雄物川上流に至る秋田県内陸部は、地元有識者の推定経路。	西出・足利(聞き取り、2014.1.27)
6	鳥海山西側	ガン・ハクチョウ類の渡り経路。オジロワシ、オオワシの渡りと思われる飛翔事例あり。	西出(聞き取り、2014.1.27) 伊藤(未発表)
7	新井田川、馬淵川	新井田川、馬淵川に沿って岩手へ至るガン類の渡り経路。海ワシの場合は、地元有識者の推定経路。	関下(聞き取り、2014.1.23)
8	三陸沿岸	三貫島には毎年渡り途中のオジロワシ、オオワシが複数集まる。三陸沿岸を渡る経路が知られている。	佐々木(聞き取り、2014.1.15) 日本野鳥の会・岩手県連絡協議会(2005)
9	津軽山地～下北半島	ガン・ハクチョウ類の渡り経路。オジロワシ、オオワシが同じ経路を渡っている可能性もある。	宮(聞き取り、2014.2.5)
10	下北半島東側	ハクチョウ類の渡り経路。オジロワシ、オオワシが同じ経路を渡っている可能性もある。	関下(聞き取り、2014.1.23)

(注) 上表中の番号は、次の図 2-3-6-1 の番号に対応する。

WEB① <http://www.gix.or.jp/~norik/hawknet/hawknet0.html>

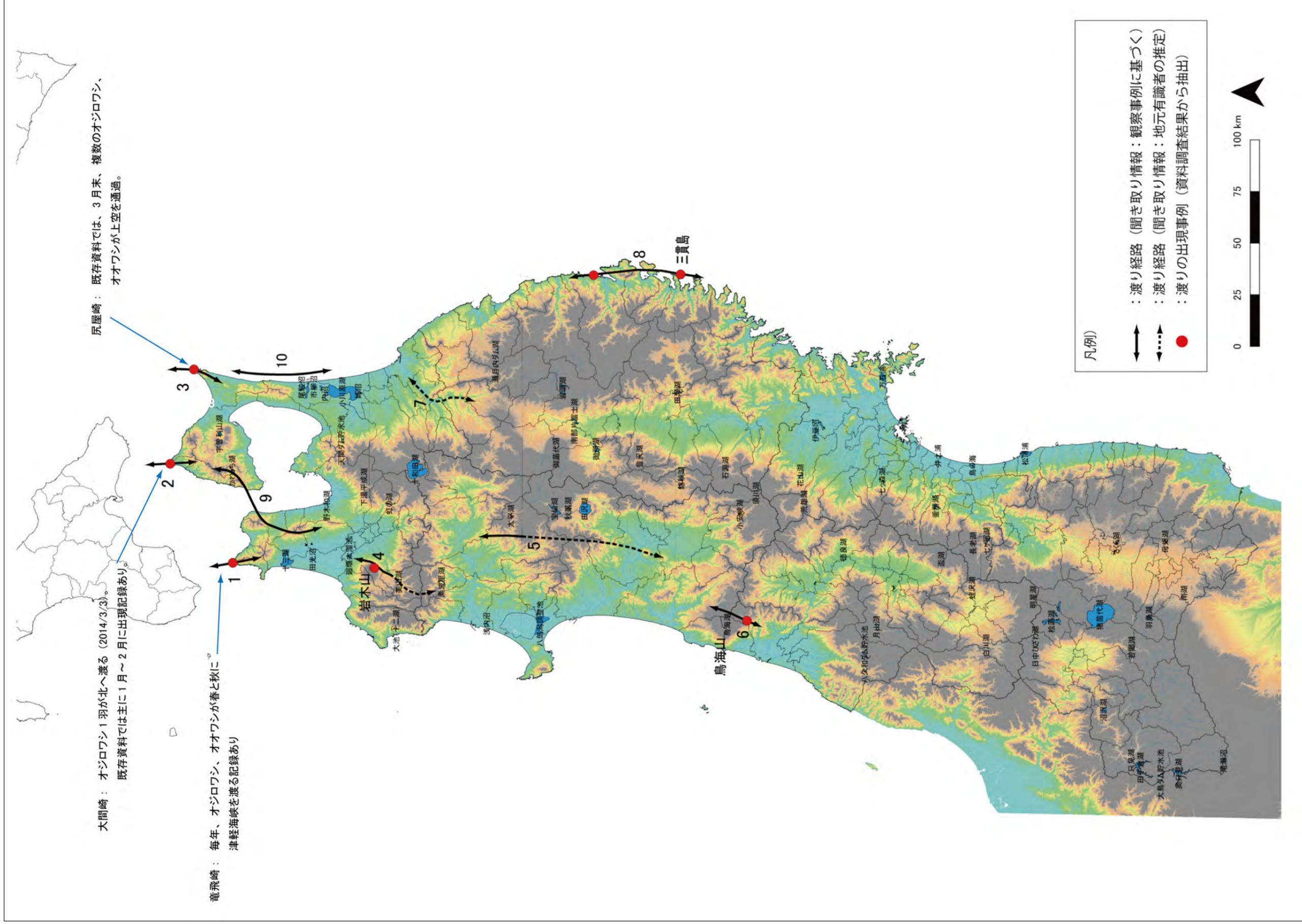


図 2-3-6-1 東北地方におけるオジロワシ・オオワシの渡り経路 (資料および聞き取り情報に基づく)